新聞を読んだり、活用したりすることで身に付く力とは？

子どもたちに求められる資質・能力は、「知識や技能」、それを活用するために必要な「思考力・判断力・表現力」、そして「学びに向かう力・人間性」です。

この３要素を育てる有効な学習材が「新聞」です。新聞を通して様々な事実にふれると、知識が増えるだけでなく、多面的に物事を考える力が身に付きます。教科書に出ていない最新の情報についての自分の考えを、第三者に積極的に発信することで３要素は向上します。

小学生向けの新聞は、わかりやすい解説が豊富なので子どもたちの発見や疑問に対する調べ学習に役立ちます。記事からテーマを取り出し、友達や親子で語り合うなどアクティブラーニングが加速するとともに、真実や本質を探ろうとする深い学びにつながります。

NEWSPAPER　「新聞とは？　新聞を読む意味とは？」　*NEWSPAPER*

新聞は、多数の人々や広い範囲に配布されるメディアとして編集され、社会・経済・政治・産業・国際・教育・文化・スポーツなど多岐にわたる内容が取り上げられています。

それら触れる読者である「受信者」に、次のような効果をもたらします。

- 身の回りで日々刻刻と起きている最新かつ様々な情報や事実に触れることができる。
- 様々な情報や事実に触れることで、それらに興味や関心、発見や疑問などが生まれる。
- 様々な情報、事実に対して、既有の知識やこれまでの自分の考えが想起・整理される。
- 既有の知識や記憶に、新たな情報や事実を組み合わせようとする思考が働く。
- 様々な情報に対する書き手の考えや結論などについて自分の解釈を施そうとする。
- 書き手の考えや結論などの根拠や理由を検討し精査しようとする態度が育まれる。
- 書き手の考えや結論などについてクリティカル・リーディングの能力が高まる。
- 自分の考えと他者（家族/友達）の考えを交流することで、多面的なものの見方ができる。

また、「発信者（表現者）」として育むことにも貢献できます。次のような観点からあなただったたら、どのように表現するかといった観点から検討を加えることができます。

- 書き手の考えや結論は、どのような客観的な事実に基づいているのか。
- 書き手が提示した事実に対して、どのような情報を付加すれば説得力が増すか。
- 書き手の考えや結論は論理的か、論理の飛躍や恣意的、独善的な面がないか。
- 報道記事だけでなく、社説やコラム、解説などの記述の特徴はどのような点か。
- 編集の仕方は、読者にとって分かりやすく工夫されているか。（活字や図、写真などの大きさや行数、配置などの割り付け）

樺山敏郎（大妻女子大学）

教育改革対策講座

2020年
学校が変わる・入試が変わる

～アクティブ・ラーニング型家庭学習の方法～

大妻女子大学
（前文部科学省国立教育政策研究所
学力調査官 兼 教育課程調査官）
樺山　敏郎　kabayama toshiro

お話ししたいこと

1　**今、なぜ教育改革が必要か**
～子供たちの未来と現状～

↓

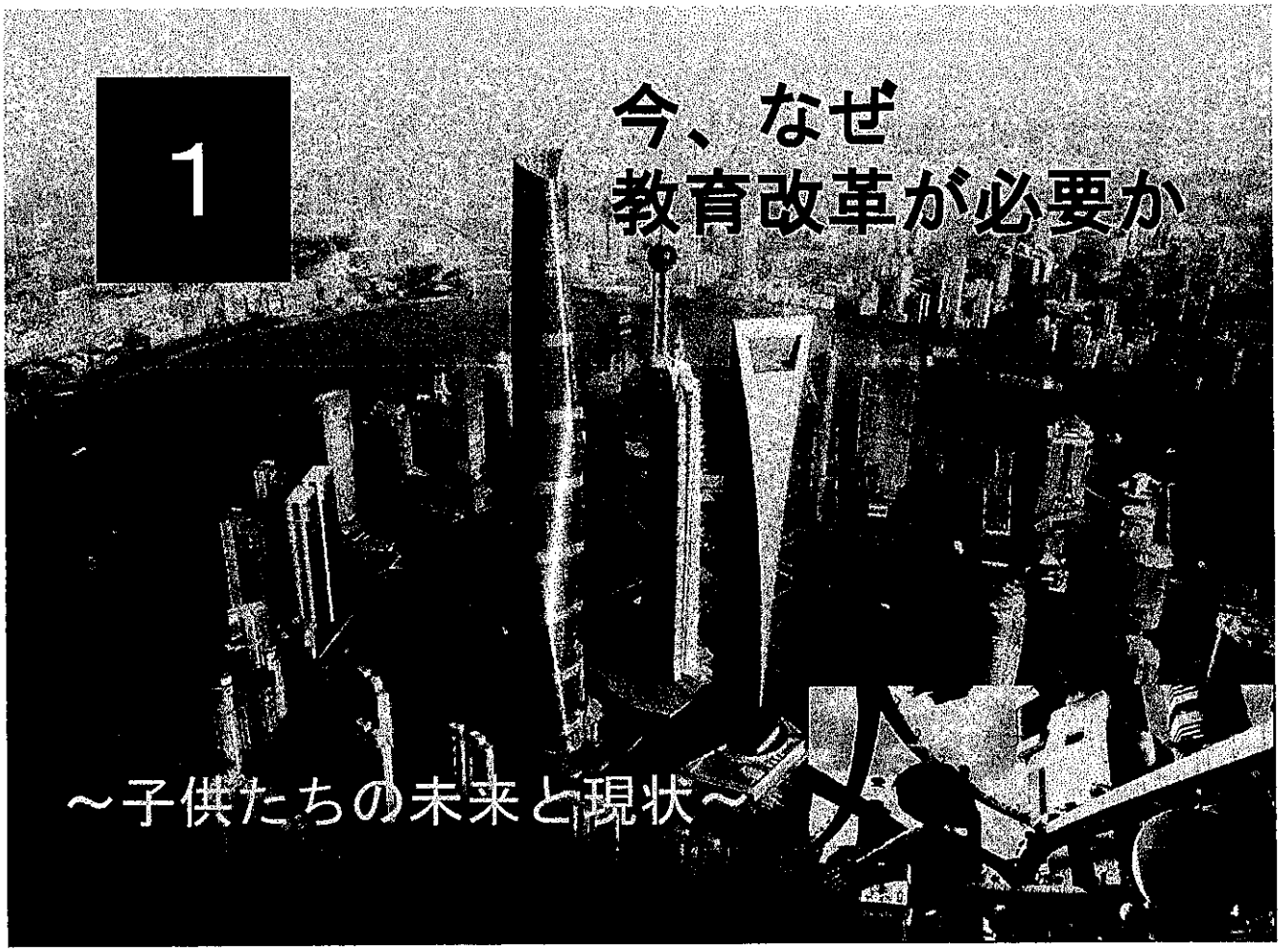
2　**2020年　学校が変わる**
～学習指導要領改訂の方向～

↓

3　**2020年　大学入試が変わる**
～高大接続改革の必要性～

↓

4　**家庭学習に求められるもの**
～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～



子供たちの未来予測

■子供たちの65%は、大学卒業後、<u>今は存在していない職業</u>に就く
キャシー・デビットソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）

■今後10年～20年程度で、<u>半数近くの仕事が自動化</u>される可能性が高い
マイケル・A・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）

■2030年までには、<u>週15時間程度働けば済む</u>ようになる
ジョン・メイナード・ケインズ氏（経済学者）

2045年には人工知能が人類を越える。現在の職業の多くを人工知能が奪う。

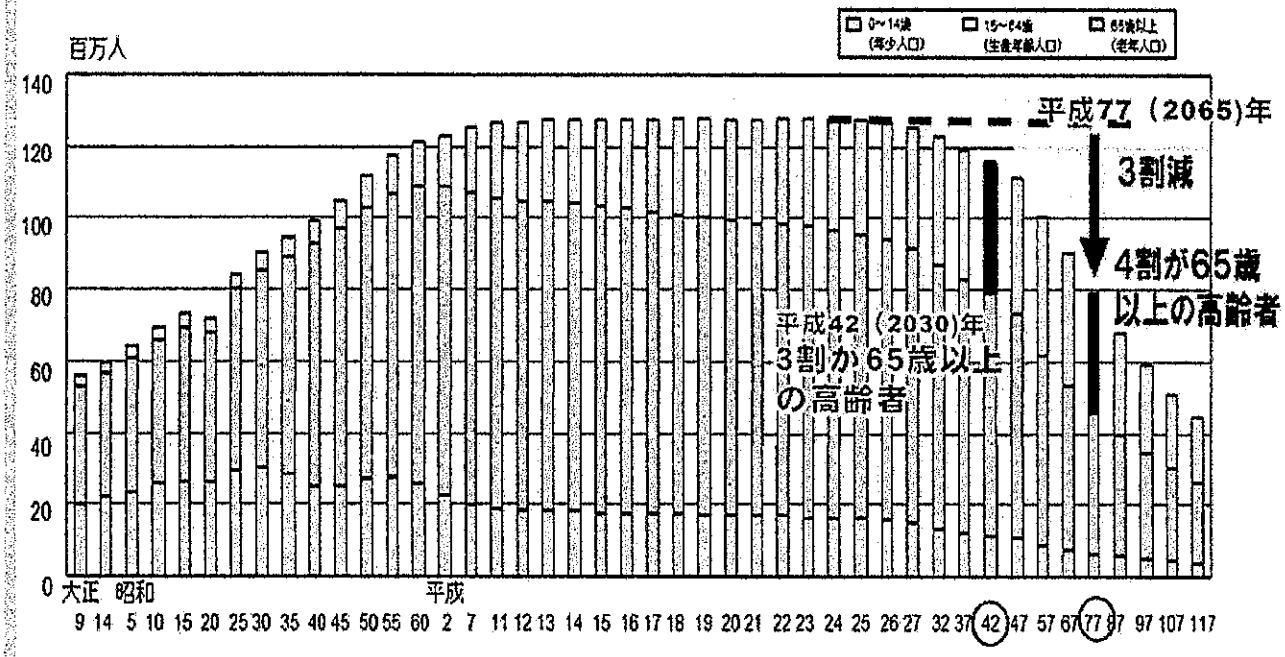
↓

今、学校で教えていることは時代が変化したら、
通用しなくなるのではないか。

1 今、なぜ教育改革が必要か～子供たちの未来と現状～

人口の推移と将来人口

◆少子高齢化の進行により、2030年には我が国の総人口の3割が65歳の高齢者となる。
さらに約50年後には総人口が現在より約3割減少、65歳以上の割合が総人口の約4割に達する見込み。

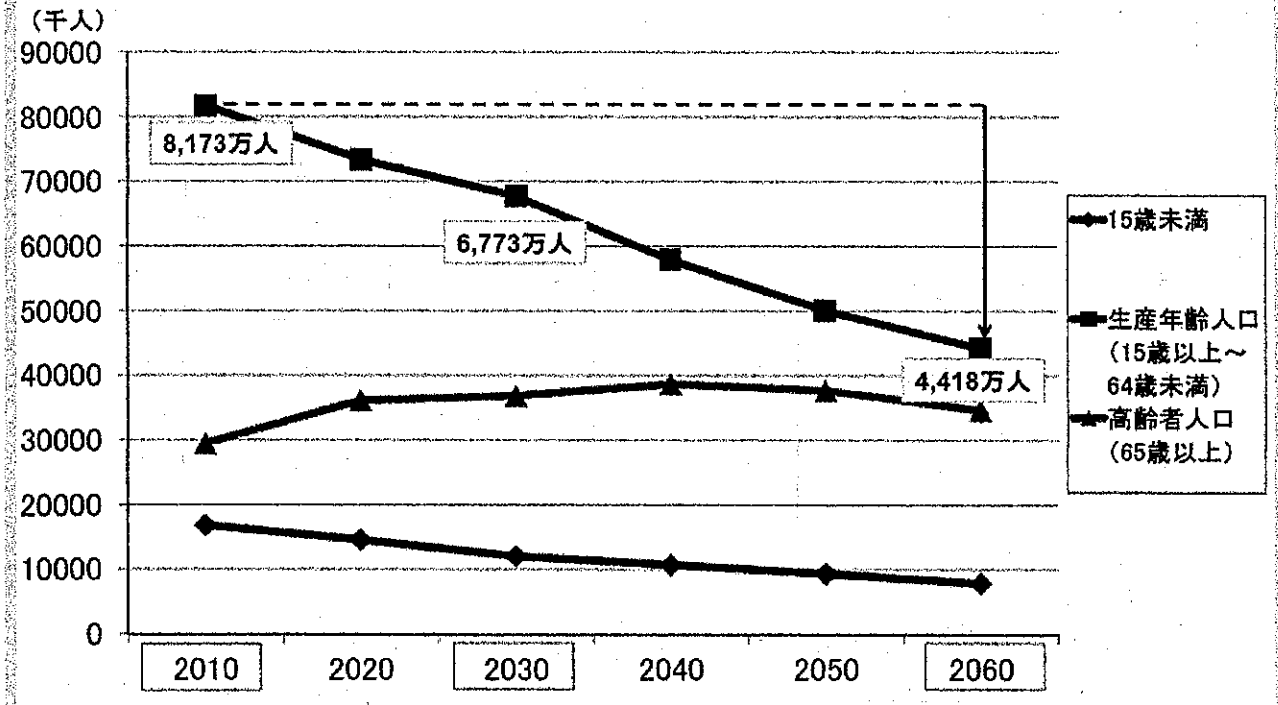


（出典）総務省統計局「日本の統計2014」より文部科学省作成

1 今、なぜ教育改革が必要か～子供たちの未来と現状～

生産年齢人口の推移

◆生産年齢人口は減り続け、2030年には2010年と比べ約8割（総人口の約58%）、2060年には約半数まで減少する見込み。

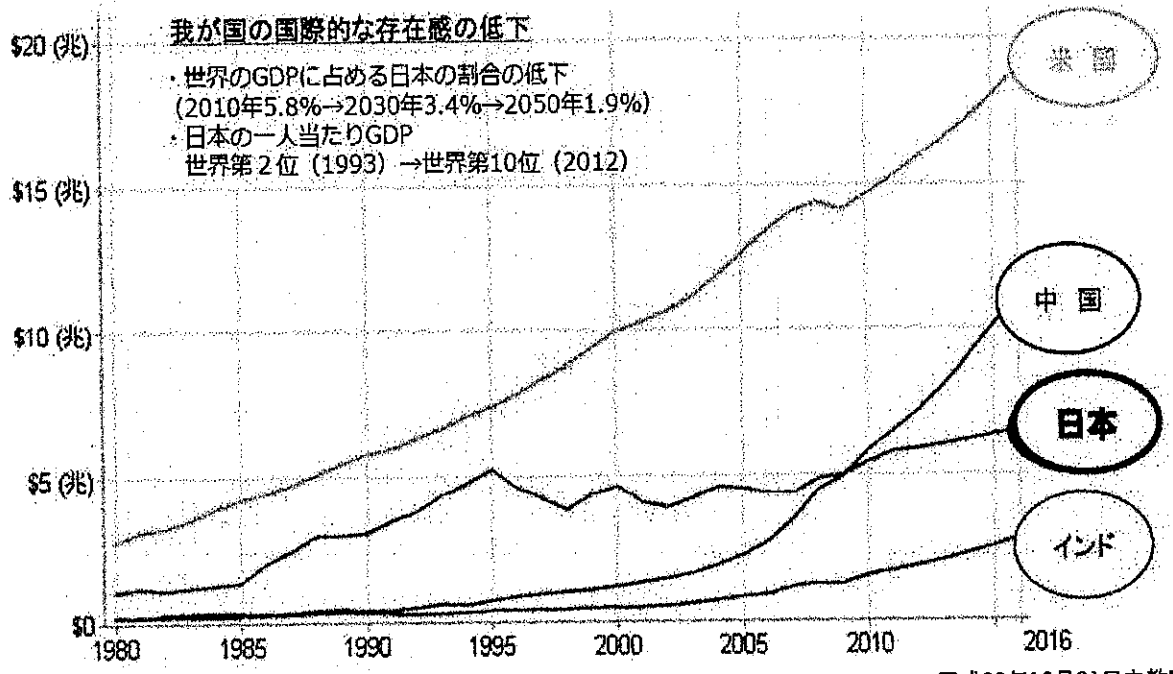


（出典）国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」
表1-1 総人口、年齢3区分（0～14歳、15～64歳、65歳以上）別人口及び年齢構造係数：出生中位（死亡中位）推計より文部科学省作成

1 今、なぜ教育改革が必要か～子供たちの未来と現状～

世界のＧＤＰに占める日本の割合の低下

◆世界のGDPに占める日本の割合について、2010年時点では、5．8%だったが、2030年には3．4%になるとの予測がある。



平成28年12月21日中教審答申

1 今、なぜ教育改革が必要か～子供たちの未来と現状～

国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）の結果

○小学校、中学校ともに、全ての教科において、引き続き上位を維持しており、前回調査に比べ、平均得点が有意に上昇している。

○ 2003年以降、経年での変化をみていくと、550点未満の児童生徒の割合が減少し、550点以上の児童生徒の割合が増加している傾向が見られる。

【平均得点の推移】 ※各国・地域の得点は、1995年調査における基準値（500点（対象児童生徒の3分の2が400点から600点に入るよう標準化））からの変化を示す値である。

		1995	1999		2003		2007		2011		2015	
小学校4年生	算数	567 点 (3位/26か国)	（調査実施せず）		有意差なし	565 点 (3 位/25 か国)	有意差なし	568 点 (4 位/36 か国)	有意に上昇	585 点 (5 位/50 か国)	有意に上昇	593 点 (5 位/49 か国)
	理科	553 点 (2位/26か国)	（調査実施せず）		有意に低下	543 点 (3 位/25 か国)	有意差なし	548 点 (4 位/36 か国)	有意に上昇	559 点 (4 位/50 か国)	有意に上昇	569 点 (3 位/47 か国)
中学校2年生	数学	581 点 (3位/41か国)	有意差なし	579 点 (5 位/38 か国)	有意に低下	570 点 (5 位/45 か国)	有意差なし	570 点 (5 位/48 か国)	有意差なし	570 点 (5 位/42 か国)	有意に上昇	586 点 (5 位/39 か国)
	理科	554 点 (3位/41か国)	有意差なし	550 点 (4 位/38 か国)	有意差なし	552 点 (6 位/45 か国)	有意差なし	554 点 (3 位/48 か国)	有意差なし	558 点 (4 位/42 か国)	有意に上昇	571 点 (2 位/39 か国)

【質問紙調査の結果概要】

○算数・数学、理科に対する意識について、

・前回調査と同様に、小学校の「理科は楽しい」を除き、国際平均を下回っている項目が多いものの、算数・数学、理科が楽しいと思う児童生徒の割合は増加しており、中学校においては、国際平均との差が縮まっている傾向が見られる。

・中学校においては、数学、理科について、「日常生活に役立つ」、「将来、自分が望む仕事につくために、良い成績をとる必要がある」という生徒の割合が増加しており、国際平均との差が縮まっている傾向が見られる。

（出典）文部科学省・国立教育政策研究所「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）のポイント」

平成28年12月21日中教審答申

1 今、なぜ教育改革が必要か～子供たちの未来と現状～

数学・理科の学習に対する生徒の意識 ―TIMSS2015質問紙調査結果から―

◆改善が見られる一方、国際平均に比べて、日本の中学生は学習の楽しさや実社会との関連に対して肯定的な回答をする割合が低いなど、引き続き学習意欲面で課題がある。

※ 生徒質問紙調査（対象：中学校2年生）において、下記項目につき、「強くそう思う」、「そう思う」と回答した生徒の割合の合計

	数学		理科	
	日本	国際平均	日本	国際平均
数学・理科の勉強は楽しい	52%	71%	66%	81%
数学・理科を勉強すると日常生活に役立つ	74%	84%	62%	85%
他教科を勉強するために数学・理科が必要	67%	80%	36%	73%
志望大学に入るために良い成績が必要	73%	85%	59%	77%
将来望む仕事につくために良い成績が必要	65%	81%	51%	72%
数学・理科を使うことが含まれる職業につきたい	21%	52%	25%	60%

（出典）IEA国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）質問紙調査結果より文部科学省作成

平成28年12月21日中教審答申

1 今、なぜ教育改革が必要か～子供たちの未来と現状～

OECD生徒の学習到達度調査（PISA2015）の結果

○ 科学的リテラシー、読解力、数学的リテラシーの各分野において、日本は国際的に見ると引き続き、平均得点が高い上位グループに位置している。一方で、前回調査と比較して、読解力の平均得点が有意に低下しているが、これについては、コンピュータ使用型調査への移行の影響などが考えられる。

○ 今回調査の中心分野である科学的リテラシーの平均得点について、三つの科学的能力別に見ると 日本は各能力ともに国際的に上位に位置している。

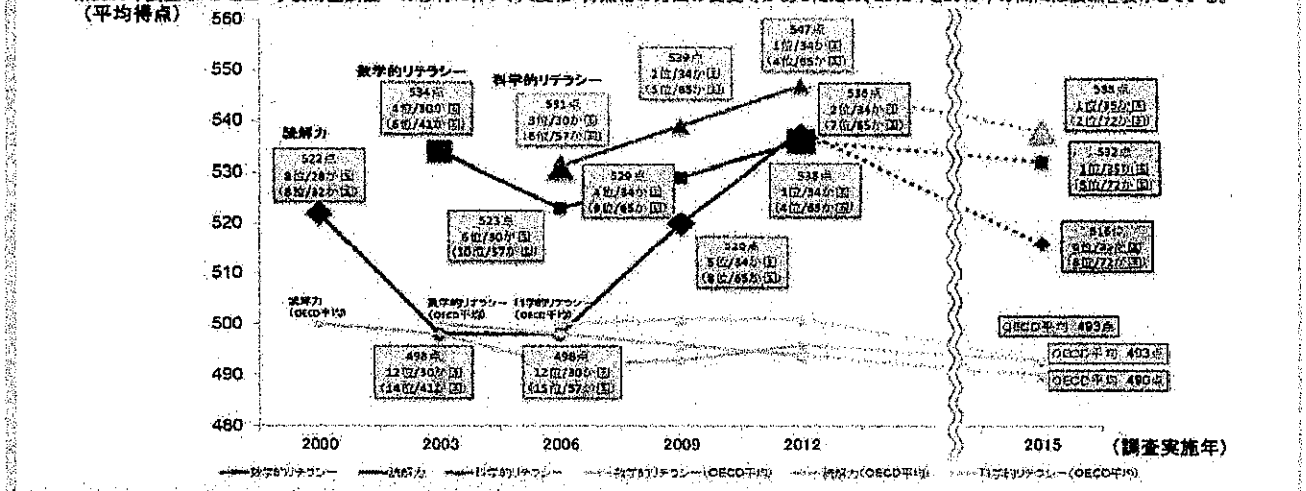
○ 生徒の科学に対する態度については、OECD平均と比較すると肯定的な回答をした生徒の割合が依然として低いものの、例えば自分の将来に理科の学習が役に立つと感じている生徒の割合が2006年に比べると増加するなどの改善が見られた。

平均得点及び順位の推移

※PISA調査：OECDが15歳児（我が国では高校1年生）を対象に実施

・※各リテラシーが初めて中心分野となった回（読解力は2000年、数学的リテラシーは2003年、科学的リテラシーは2006年）のOECD平均500点を基準値として、得点を換算。数学的リテラシー、科学的リテラシーは経年比較可能な調査回以降の結果を掲載。中心分野の年はマークを大きくしている。

・※2015年調査はコンピュータ使用型調査への移行に伴い、尺度化・得点化の方法の変更等があったため、2012年と2015年の間には波線を表示している。



（出典）文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2015）のポイント」 28

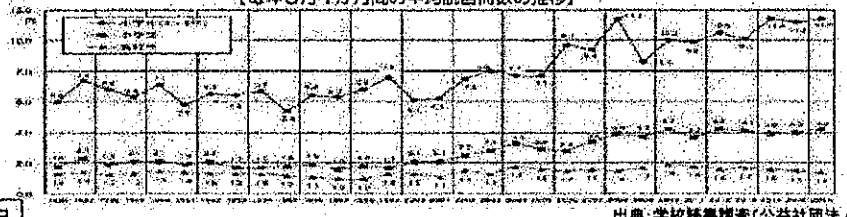
平成28年12月21日中教審答申

【参考２】子供たちを取り巻く情報環境

○平均読書冊数について、昨年度に比べ、小中学生は微増しているが、高校生は減少
○新聞を読んでいると回答している小中学生の割合は減少傾向
○スマートフォンを活用したインターネットの利用時間は増加傾向
⇒高校生を中心に、読書量や新聞を読む機会は減少傾向である一方、スマートフォンを活用したインターネットの利用時間が増加傾向にある。子供たちを取り巻く情報環境の変化により、児童生徒が一定量の文章と接する機会も変化していることが考えられる。

子供たちの読書状況

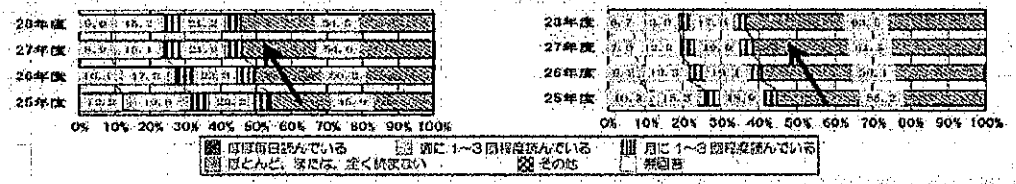
【毎年5月1か月間の平均読書冊数の推移】



出典：学校読書調査（公益社団法人全国学校図書館協議会）

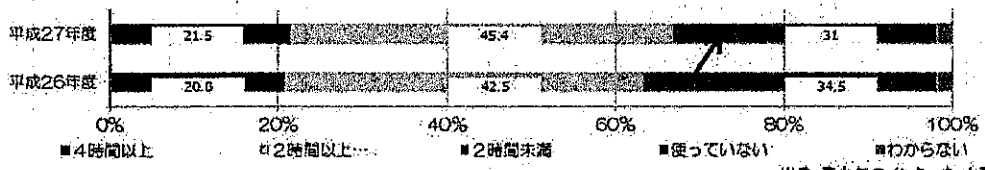
子供たちの新聞を読む状況

質問事項：新聞を読んでいますか



出典：平成28年度全国学力・学習状況調査

スマートフォンを活用したインターネットの利用状況（高校生）



出典：青少年のインターネット利用環境実態調査

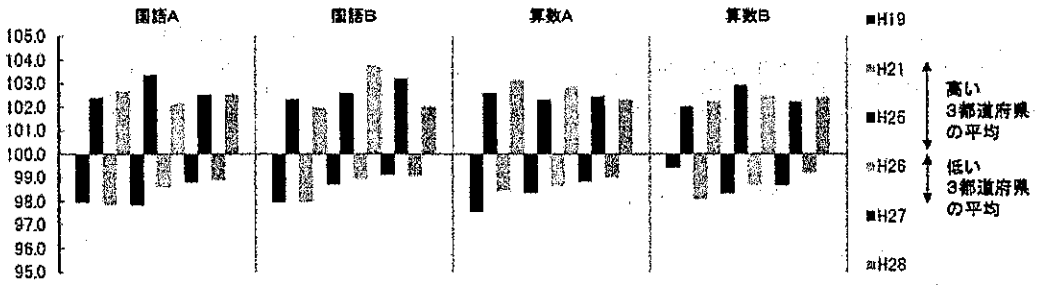
標準化得点が低い県と全国平均の差の縮小　―全国学力・学習状況調査の結果から―

◆各年度で標準化得点（公立）が低い3都道府県の平均を見ると、下位県の成績が全国平均に近づく状況が見られ、学力の底上げが図られている。

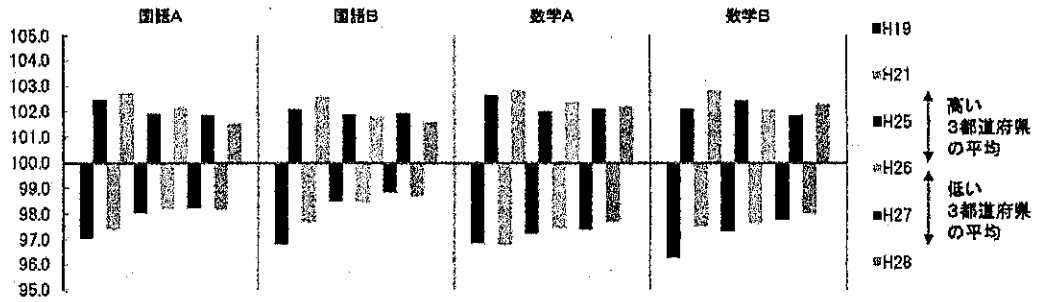
標準化得点の推移
（※高い3都道府県と低い3都道府県の状況）

※標準化得点…各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができないため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の調査の全国（公立）の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点

【小学校】



【中学校】

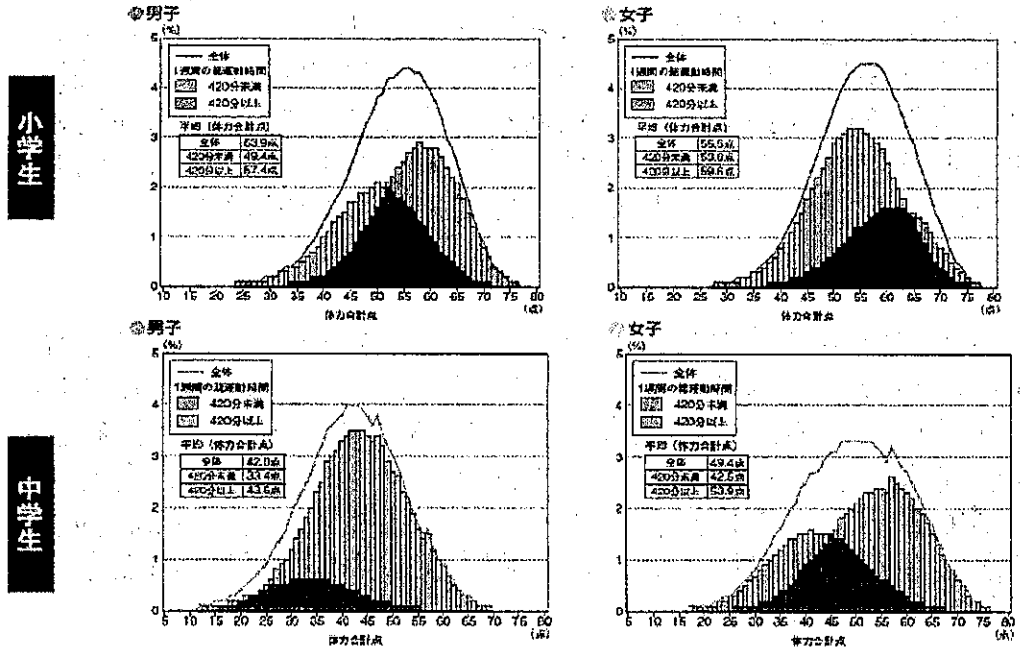


（出典）文部科学省・国立教育政策研究所「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」

1 今、なぜ教育改革が必要か～子供たちの未来と現状～

子供の運動時間と体力の推移

◆子供の運動習慣と体力は二極化傾向。



54

（出典）平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

平成28年12月21日中教審答申

2

2020年 学校が変わる

～学[illegible]改訂の方向～

近未来の社会に必要な教育とは・・・

社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば、難しい時代になると考えるかもしれない。しかし、このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。

人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中の処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考えだすことができる。（中略）答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができるという強みを持っている。

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得 ― 未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

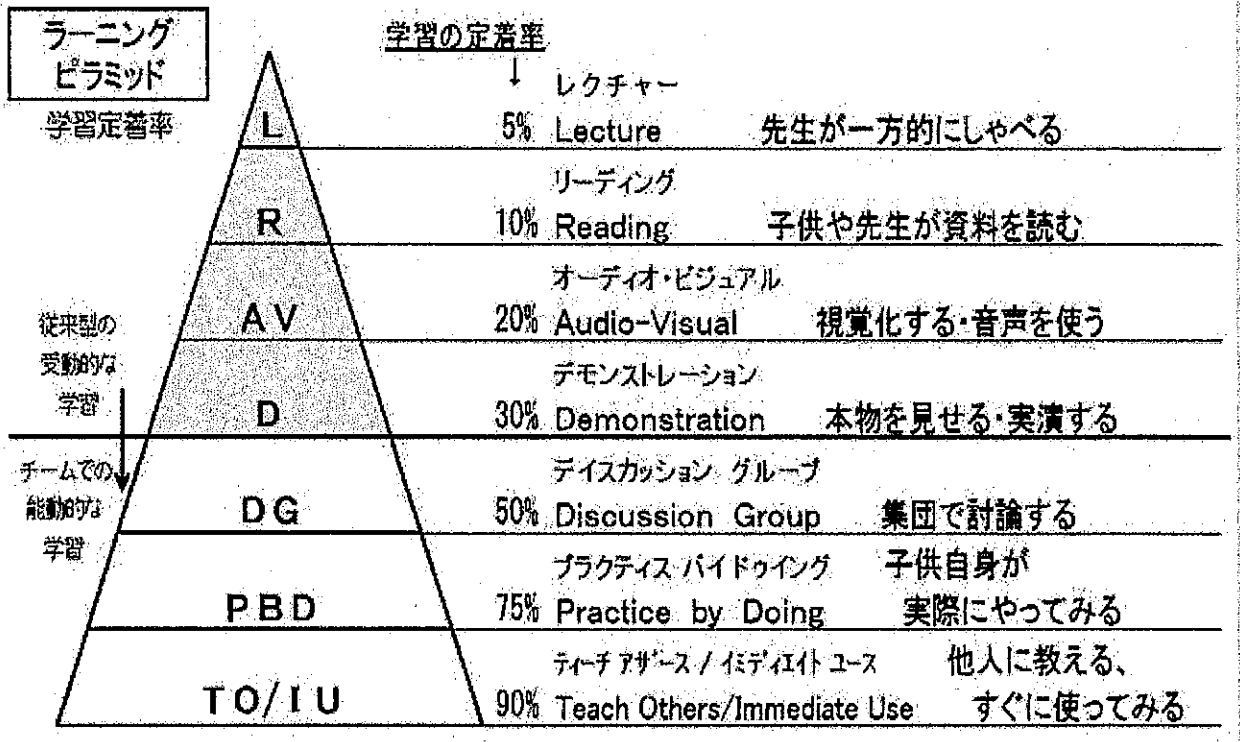
生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、無駄な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、教育用語の精選等を含めた高大接続の工夫等を進める。

2　2020年　学校が変わる～学習指導要領改訂の方向～



2　2020年　学校が変わる～学習指導要領改訂の方向～

主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

【対話的な学び】
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【深い学び】
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

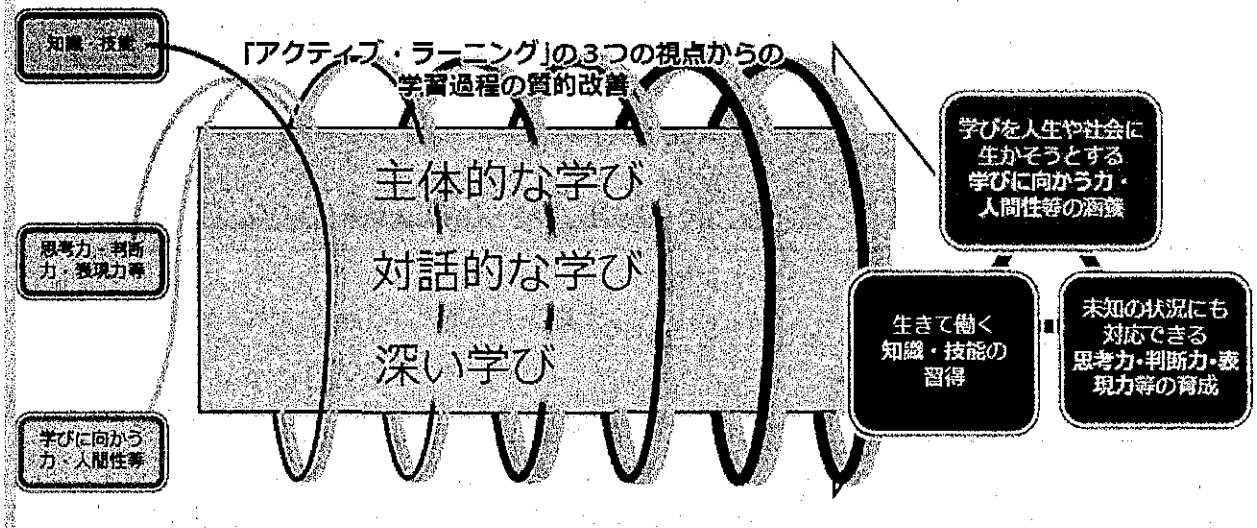
平成28年12月21日中教審答申

2　2020年　学校が変わる～学習指導要領改訂の方向～

資質・能力の育成と
主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）

◆　「アクティブ・ラーニング」の３つの視点を明確化することで、授業や学習の改善に向けた取組を活性化することができる。これにより、知識・技能を生きて働くものとして習得することを含め、育成を目指す資質・能力を身につけるために必要な学習過程の質的改善を実現する。

◆　資質・能力は相互に関連しており、例えば、習得・活用・探究のプロセスにおいては、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるという一方通行の関係ではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得されたり、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたりすることなども含む。



※　基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られる場合においても、「深い学び」の視点から学習内容の深い理解や動機付けにつなげたり、「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出すことなどが重要である。

平成28年12月21日中教審答申

2　2020年　学校が変わる～学習指導要領改訂の方向～

幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント

1. 今回の改訂の基本的な考え方

○　教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。

○　知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。

○　先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

2. 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

「何ができるようになるか」を明確化

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3つの柱で再整理。

（例）中学校理科（生命領域）：①生物の体のつくりと働き、生命の連続性などについて理解させるとともに、②観察、実験など科学的に探究する活動を通して、生物の多様性に気付くとともに規則性を見いだしたり表現したりする力を養い、③科学的に探究する態度や生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

平成29年2月14日文科省パブコメ用資料

我が国の教育実践の蓄積に基づく授業改善

我が国のこれまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、子供たちの知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育んでいくことが重要。

小・中学校においては、これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないと浮足立つ必要はなく、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかり引き継ぎつつ、授業を工夫・改善する必要。

（語彙を表現に生かす、社会について資料に基づき考える、日常生活の文脈で数学を活用する、観察・実験を通じて科学的に根拠をもって思考する　　など）

※ 教員が授業準備などを行う時間を確保するために、16年ぶりの義務標準法改正による計画的な教職員定数の改善などの条件整備や運動部活動ガイドラインの策定による業務改善などを一層推進。

※ 既に行われている優れた教育実践の教材、指導案などを集約・共有化し、各種研修や授業研究、授業準備での活用のために提供するなどの支援の充実。

3. 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

○ 教科等の目標や内容を見渡し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実する必要。また、「主体的・対話的で深い学び」の充実には単元など数コマ程度の授業のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫することが重要。

○ そのため、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立。

4. 教育内容の主な改善事項

言語能力の確実な育成

・発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成（小中：国語）

・学習の基盤としての各教科等における言語活動（実験レポートの作成、立場や根拠を明確にして議論することなど）の充実（小中：総則、各教科等）

理数教育の充実

・前回改訂において2～3割程度授業時数を増加し充実させた内容を今回も維持した上で、日常生活等から問題を見いだす活動（小：算数、中：数学）や見通しをもった観察・実験（小中：理科）などの充実によりさらに学習の質を向上

・必要なデータを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決するための統計教育の充実（小：算数、中：数学）、自然災害に関する内容の充実（小中：理科）

伝統や文化に関する教育の充実

・正月、わらべうたや伝統的な遊びなど我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむこと（幼稚園）

・古典など我が国の言語文化（小中：国語）、県内の主な文化財や年中行事の理解（小：社会）、我が国や郷土の音楽、和楽器（小中：音楽）、　武道（中：保健体育）、和食や和服（小：家庭、中：技術・家庭）などの指導の充実

2　2020年　学校が変わる～学習指導要領改訂の方向～

道徳教育の充実

・先行する道徳の特別教科化（小：平成30年4月、中：平成31年4月）による、道徳的価値を自分事として理解し、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする道徳教育の充実

体験活動の充実

・生命の有限性や自然の大切さ、挑戦や他者との協働の重要性を実感するための体験活動の充実（小中：総則）、自然の中での集団宿泊体験活動や職場体験の重視（小中：特別活動等）

外国語教育の充実

・小学校において、中学年で「外国語活動」を、高学年で「外国語科」を導入
※小学校の外国語教育の充実に当たっては、新教材の整備、研修、外部人材の活用などの条件整備を行い支援

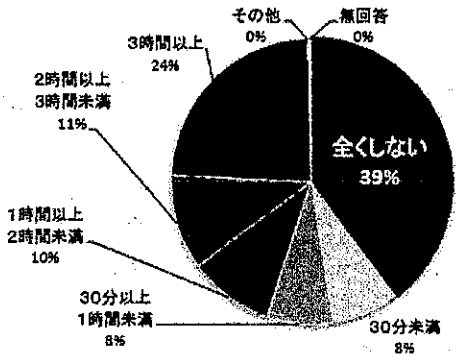
・小・中・高等学校一貫した学びを重視し、外国語能力の向上を図る目標を設定するとともに、国語教育との連携を図り日本語の特徴やよさに気付く指導の充実

平成29年2月14日文科省パブコメ用資料

高校生の学力・学習意欲等の状況

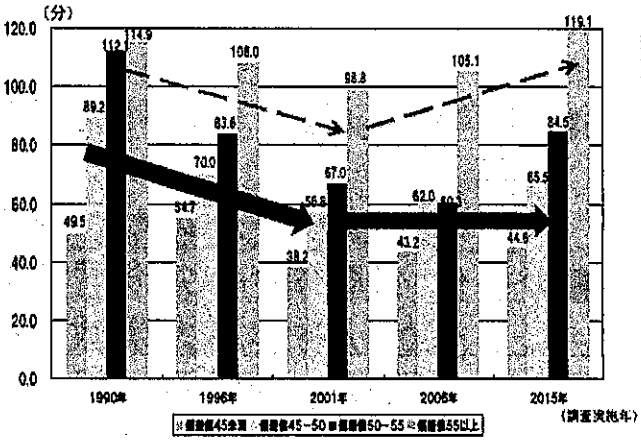
○平日、学校の授業時間以外に全く又はほとんど勉強していない者は、高校3年生の約4割
○高校生の学校外の平均学習時間については、中上位層には大幅な減少からの改善傾向が見られるが、下位層は低い水準で推移している

■高校生の家庭学習時間



(出典)国立教育政策研究所「平成17年度教育課程実施状況調査」
※平日の平均学習時間。土日は除く。
塾・予備校、家庭教師との学習時間を含む。
※回答人数149,753人

■高校生の学習時間の経年変化

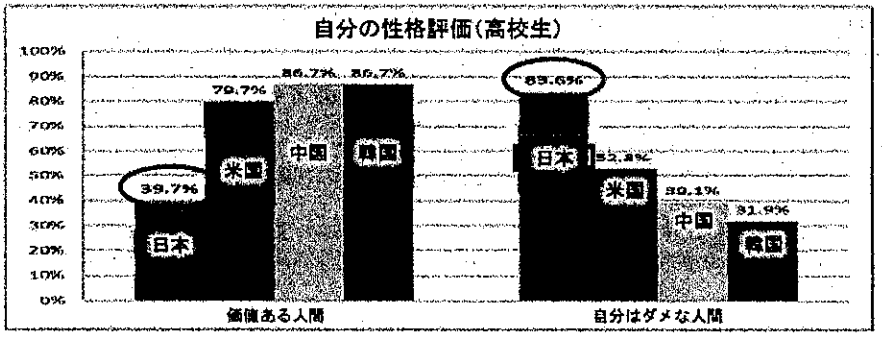


※平日の平均学習時間。土日は除く。塾・予備校、家庭教師との学習時間を含む。

(出典)ベネッセ教育総合研究所「第5回学習基本調査」

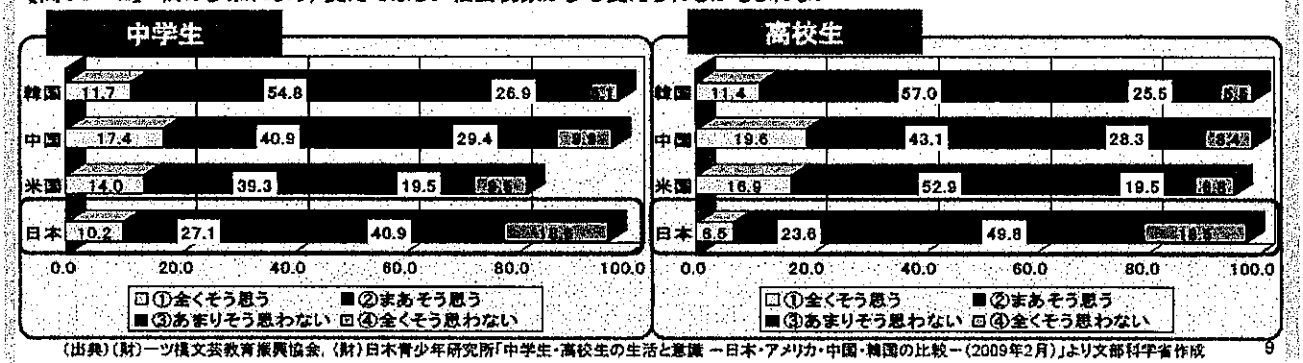
生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識について

○米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は、「自分を価値ある人間だ」という自尊心を持っている割合が半分以下、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い。



(出典)
(財)一ツ橋文芸教育振興会、
(財)日本青少年研究所
「高校生の生活意識と留学に関する調査報告書」(2012年4月)より
文部科学省作成

【問33－2】私の参加により，変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない



(出典)(財)一ツ橋文芸教育振興協会，(財)日本青少年研究所「中学生・高校生の生活と意識 －日本・アメリカ・中国・韓国の比較－(2009年2月)」より文部科学省作成

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

○「高大接続改革」とは何か
①高等学校教育、②大学教育、
③両者を接続する大学入学者選抜
これらを連続した一つの軸として、一体的に改革するもの。

○なぜ、「高大接続改革」なのか
■「高等学校教育」と「大学入学者選抜」は一緒に変わる必要。
→大学入試が変わらないと高等学校教育は変わらない。
■少子化・国際競争の進展の中で、大学教育の質的転換
（しっかりと学ぶ大学教育へ）
→大学教育を受けるに足る入学者の選抜
→多様な入学者とそれに合わせた教育プログラムの必要性

平成28年12月21日中教審答申

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

高大接続システム改革会議「最終報告」【概要】

【検討の背景・目的】

○ 新たな時代に向けて国内外に大きな社会変動が起こっている中、多様な人々と協力しながら主体性を持って人生を切り開いていく力が重要であり、知識の量だけでなく、混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくための資質・能力が一層重要になる。
　このような中で、今後の時代を生きる上で必要となる資質・能力の育成に向けた教育改革を進めるに当たり、特に重視していくべきは、（1）十分な知識・技能、（2）それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力、（3）これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（これらを「学力の3要素」と呼ぶ）。

○ 上記の基本的認識は、現行学習指導要領においても共有しており、記録、要約、説明、論述、討論などの「言語活動」を充実。小中学校においては、近年、各学校で指導の改善が進み、改革の成果が上がってきていると評価。
　OECDのPISA調査でも、我が国の子供たち全体の成績は国際的に高い水準。

○ 一方、高等学校教育、大学入学者選抜、大学教育にはそれぞれ課題。

・高等学校教育：授業改善への取組も見られるが、「学力の3要素」を踏まえた指導が十分浸透していない。
・大学入学者選抜：知識の暗記・再生や暗記した解法パターンの適用の評価に偏りがち。一部のAO・推薦入試はいわゆる「学力不問」と揶揄される状況。
・大学教育：授業改善への取組も見られるが、知識の伝達にとどまる授業も見られ、学生の力をどれだけ伸ばし社会に送り出せているのかについて社会から厳しい評価。

○ 多様な背景を持つ子供の夢や目標の実現に向けた努力をしっかりと評価し、社会で花開かせる高等学校教育改革、大学教育改革及び大学入学者選抜改革を創造すべく、これらをシステムと捉え、一貫した 理念の下、一体的に改革（高大接続システム改革）に取り組む。
【一人一人の持つ主体性や多様な個性の尊重、学びの「プロセス」の充実と多面的な評価】
※改革の実現に向け、適切な手順と十分な情報公開を踏まえて着実に取り組むことが肝要。

平成28年12月21日中教審答申

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

別添資料１

高大接続システム改革の全体イメージ～主体性を持って，多様な人々と学び，働くことのできる力を育む～

高等学校教育

教育内容の見直し

⇒次期高等学校学習指導要領の改訂など

【H26.11～中教審教育課程企画特別部会で審議中】

・教育目標・内容と学習・指導方法，学習評価の在り方を一体として捉えた学習指導要領等の基本的な考え方を明確化

・育成すべき資質・能力を踏まえた，教科・科目等の見直し

学習・指導方法の改善と教員の指導力向上

⇒教員の養成・採用・研修の見直しなど

【H27.12～中教審答申】

・学習・指導方法の改善に対応するための教員の指導力の向上

多面的な評価の推進

⇒学習評価の改善

・生徒の多様な学習活動・成果が評価され，指導に反映されるよう，学習評価の在り方や指導要録を改善

⇒多様な学習成果を測定するツールの充実

・生徒の基礎学力の確実な習得とそれによる学習意欲の喚起のための高等学校基礎学力テスト（仮称）の導入

・農，工，商業などの検定試験や英語などの民間検定の利活用の促進

大学入学者選抜

個別選抜の改革

ポリシーに始った選抜

各大学において，入学者受入れの方針に基づき，例えば，下記の方法からどのような比重で活用するのか等を決定・公表

ア　大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の結果

イ　自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法

ウ　高校時代の学習・活動歴
・調査書
・活動報告書（個人の多様な活動，部活動，ボランティア活動・生徒会活動等）
・各種大会や顕彰等の記録
・資格・検定試験の結果
・推薦書等

エ　エッセイ

オ　大学入学希望理由書，学修計画書

カ　面接，ディベート，集団討論，プレゼンテーション

右の３要素を左のような方法で評価

①知識・技能

②思考力・判断力・表現力
※①を基盤にして常が一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力

③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の導入

◆調査書の改善

◆個別選抜の改革の支援

（アドミッション・オフィスの整備・強化，新たな評価手法の調査研究等）

大　学　教　育

各大学の教育理念に基づく三つの方針の一体的な策定を法令上位置付け，ガイドラインを策定

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

右の二つの方針を踏まえ，以下の3要素について各大学でどのような能力をどのような方法で評価するのかを明確化

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

各大学において，それぞれの卒業認定・学位授与の方針の達成のために，どのような教育内容・方法を実施し，学修成果をどのように評価するのかを明確化

○カリキュラムの体系化
・多様な背景を持つ学生を大学教育に円滑に移行させるための「初年次教育」の充実
・個々の学生の能動的な学修を促進するためのカリキュラムの工夫
・広く深い学修を育まれる学修環境の整備など

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

各大学において，どのような能力を身に付けた者の卒業を認定し，学位を授与するのかを明確化

○卒業に必要な要件の明確化と厳格な卒業認定・学位授与

○卒業後を見据えた社会との連携強化

◆三つの方針の策定及び運用に関するガイドラインの策定
・三つの方針を起点とした大学教育に関する内部質保証の構立
・各方針に照らした取組の適切性についての自己点検・評価
・分かりやすく積極的な情報公開

◆ファカルティ・ディベロップメント（FD），スタッフ・ディベロップメント（SD）の充実

◆認証評価制度の改善（三つの方針，内部質保証を評価等）

平成28年12月21日中教審答申

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

高大接続改革のスケジュール

参考２

【具体的方策】1. 高等学校教育改革

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
教育課程の見直し		中央教育審議会にて，審議 → 答申	告示	開始・徹底	教科書作成・検定・採択・供給			新学習指導要領（年次進行で実施）		
学習指導方法の改善，教員の指導力の向上		制度改正		制度改正に基づく教員の養成・採用・研修の充実						
多面的な評価の充実		中央教育審議会にて審議 → 答申		多面的な評価の推進 ・学習評価の在り方の見直しや指導要録の改善 ・学習成果を多面的に評価するツールとしての民間検定等の活用の促進 ・生徒自身の自発的なキャリア形成を促す方策の推進				新学習指導要領を踏まえた対応		
「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の導入		「実施方針」の策定に向けた検討	「実施方針」の策定・公表（29年度初頭） プレテストの実施（29年度前半）	「大学入試センターの改革に関する基本的方針」 「実施大綱」の策定・公表（30年度初頭）	「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の試行実施					「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の実施

【具体的方策】2. 大学教育改革

三つの方針に基づく大学教育の実現	学校教育法施行規則，大学設置基準等の改正・三つの方針の策定・公表のガイドラインの策定	各大学において，三つの方針の策定，見直し等の取組（3月末までに実施完了）	省令改正 → 4月改正施行	★各大学における各方針を踏まえた卒業認定，カリキュラム改革，入学者選抜の改革，SD，FD等の取組 → 可能なものから速やかに実施
認証評価制度の改革	認証評価の細目を定める省令の改正（三つの方針に関する評価 など）	評価機関において，新たな評価基準への改訂，各大学への周知	各大学において，自己点検・評価 → 省令改正・施行	第3サイクル評価開始（平成30年度～）

【具体的方策】3. 大学入学者選抜改革

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入		「実施方針」の策定に向けた検討 → 「実施方針」の策定・公表（29年度初頭）	新テストに係る実証的・専門的検討と準備・実施：プレテストの実施（30年度前半） 「実施大綱」の策定・公表（31年度初頭目途）	「大学入学希望者学力評価テスト」の実施	新学習指導要領に対応した「実施大綱」の予告	新学習指導要領に対応した「実施大綱」の策定・公表	新学習指導要領の下での実施	新学習指導要領に対応した「実施大綱」の策定・公表	新学習指導要領の下での実施	新学習指導要領の下での実施
個別大学における入学者選抜改革		大学入学者選抜実施要項の見直しについて，高校・大学関係者による協議	大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告通知（28年度初頭目途） 各大学の入学者選抜方法等の予告・公表	平成33年度大学入学者選抜実施要項・発出（32年3月）	各大学で選抜実施	新学習指導要領に対応した個別選抜の実施に関する通知	各大学の入学者選抜方法等の予告・公表	平成37年度大学入学者選抜実施要項・発出（36年3月）	各大学で選抜実施	

平成28年12月21日中教審答申

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

【表】新しい２つのテストの概要（現行学習指導要領下におけるテスト導入当初の案）

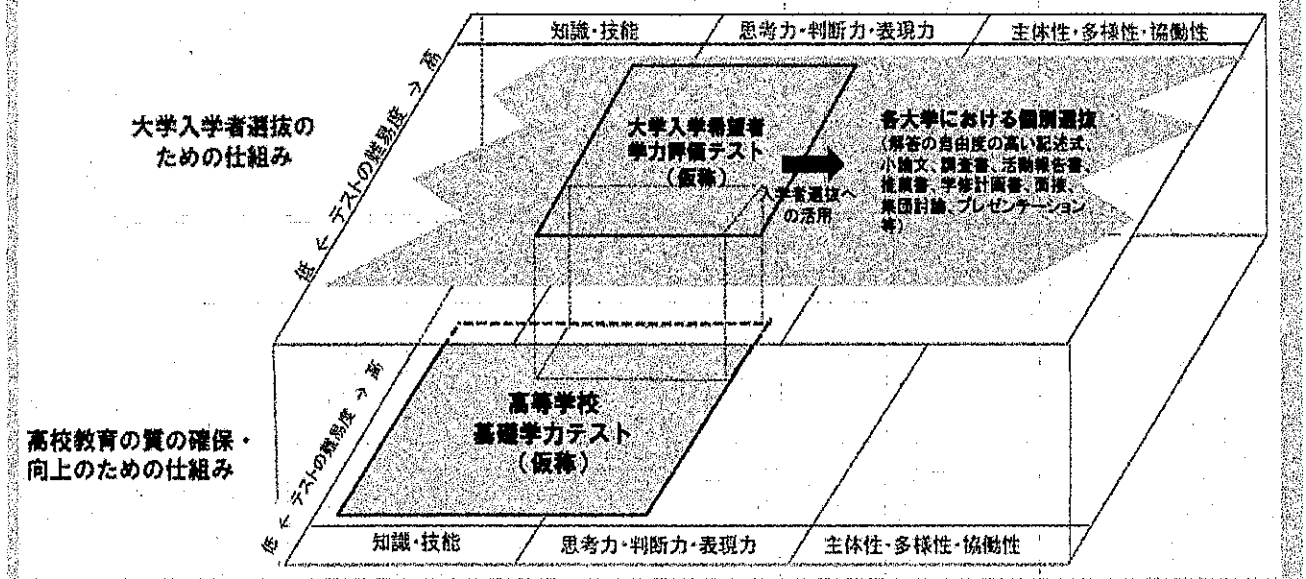
	高等学校基礎学力テスト（仮称）	大学入学希望者学力評価テスト（仮称）
目的	高校での基礎学力定着度の把握 ※2019～22年度までは入試・就職には利用しない（試行実施期）	大学教育を受けるために必要な能力の把握
対象	高校生（学校単位での参加が基本） ※個人単位での受検、生涯学習の観点から既卒業者等の受検も可能とする	大学入学希望者
実施回数・時期	学年、時期を学校において判断できる仕組み ※問題レベル、受検科目も学校において判断	年複数回実施・時期は今後検討 選択式と記述式は別日での実施も検討
測定する力	基礎的な「知識・技能」を問う問題中心	「思考力・判断力・表現力」を中心に評価
対象教科・科目	•英語（コミュニケーション英語Ⅰ）、数学（数学Ⅰ）、国語（国語総合） •英語は四技能を測る問題構成とする •大量の問題群から複数レベルの問題セットを用意 •１科目50～60分を基本	•「地理歴史、公民」「数学、理科」「国語」「英語」に分けて出題内容の方向を明示 •英語は四技能を重視して評価 •科目数はできるだけ簡素化
解答方式	•選択式 （短文記述式を一部試行実施） •ＣＢＴ方式での実施を前提 •ＩＲＴを導入する方向で検討	•選択式＋短文記述式 ※記述式は「国語」「数学」を対象教科とする ※選択式では「連動型複数選択問題」の導入を検討 •ＣＢＴの試行に取り組む
成績提供	•複数段階で結果提供 •単元ごとなど分野別の結果も提供	•選択式部分の結果提供 例えば点数だけではなく各科目の領域・問いごとの解答状況など多様な情報を大学に提供。また、問題を「知識・技能を中心に評価」「思考力・判断力を中心に評価」するものに分けて設定し、各大学が得点比重を判断できるよう検討 •記述式部分の結果は段階別表示

※表は2016年3月現在判明事項をまとめたもの（高大接続システム改革会議「最終報告」より作成）

河合塾　http://www.keinet.ne.jp/dnj/20/20kaisetsu_02.html

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の難易度と活用方策イメージ



平成28年12月21日中教審答申

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

多様化する高校教育の質の確保と「高等学校基礎学力テスト（仮称）」との関係　別添資料5

○ 量的拡大をベースとした施策から、多様化した高校における「質的充実」に向けた施策への転換を目指す。
○ 高校において、各学校の特性に応じた魅力ある学びを提供するなどの方策を推進するとともに、生徒の基礎学力の把握・定着のための仕組を構築する。
○ 大学において、多様な入学生に対応した初年次教育の見直し・充実など、大学教育の改革を目指す。

義務教育（小・中学校）

◆多様な高校入試
◆高校進学率（H27）
98.5%

高等学校
（生徒数・割合）

- AO・推薦入試を経由する大学進学者は約4割まで増加
- 授業外の学習時間は約6割の高校3年生が1時間未満
  - 約半数の高校生が勉強をしない
  - 高校生のスマホ等の利用は、男子平約3.8時間、女子平約5．5時間

⇒ 高校生の基礎学力や学習意欲が大幅に低下していないか。
高校生の時間が有効に活用されていないのではないか。

県教委等
○高校の魅力づくりとともに、質の確保のための体制強化や再編整備
○学校支援のための教員人事配置や予算措置、教員研修等の取組

専門高校（約72万人（22%））
○ SPH事業等を通じた専門的な教育の充実
（※農林業校での松茸農家の経営実践の学習等）
○ 各専門分野で技長会等が実施する検定等を活用した多面的評価の推進
（※情報技術検定、簿記 等）
基礎学力テストの活用
○ 職業人としての専門性の育成を図る上で、必要となる基礎学力の確実な定着を目指す学校による取組

普通高校、総合高校（約330万人（78%））
○生徒の能力・適性等に応じた学力向上の取組の推進（※SSHやSGH事業の推進、授業充実の工夫、ICT活用、学習評価の改善）
○重点支援校を指定し、教育配置や教育課程を工夫・充実
○多様な入試を経て入学した生徒に対して義務教育の内容も含めた学び直しの徹底
（※補習や学校独自教材の活用等）

定時制・通信制（約28万人）
○広域通信制高校の教育運営改善支援はじめ、教育の質の確保に向けた取組の推進
○基礎学力テストの活用等を通じて更なる教育の質の向上

基礎学力テストの導入意義
社会で自立するために必要な基礎学力について、各学校がそれぞれの実情を踏まえて目標を設定し、取組が進められるよう、
「定着度合いの目安」
を把握する仕組を構築

生徒
基礎学力の定着度合いの確認を通じ、興味・関心を引き出し、自ら「学びの質の向上」に取り組めるようにする
○ 生徒個人の基礎学力テストの希望受検可能（各県に受検会場を設置）
○ 高卒程度認定試験との連携を検討（安易な高校卒業資格の取得の助長につながらぬよう配慮）

基礎学力テストの活用に係
○少人数指導や補習の実施など、きめ細やかな学習指導による基礎学力の定着に向けた取組

（キャリア教育等の充実とあわせて）
社会での活動等に接続

（参考）職場で社会人として求められる基礎学力のイメージ
・読み、書き
・柔軟な思考力
・基本ITスキル、社会人常識 等

大学・短大（約58万人（55%））
（新たな高等教育機関の検討を含む）
・入学者レベルに応じた初年次教育の見直し・充実など
・「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入学者選抜

専門学校・各種学校（約23万人（22%））

就職（約1.9万人（1.8%））

平成28年12月21日中教審答申

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の位置付けや目的等を踏まえた出題の方向性（たたき台）

【出題のねらい】
○「社会で自立し、社会に参画・貢献していくために必要な力」として、様々な場面で生かされることを想定し、出題することを目指す。

＜場面の一例（イメージ）＞
（国語）
- ニュースや演説、社会で用いられる文書等から、話題等の要点を的確に捉えて書き出したり、概要をまとめたりすることができるか。
- 会議や打合せに向けて、必要となる情報を収集して提案する内容を考え、会議等の目的や状況を踏まえて表現を工夫したり、根拠をもって説明したりすることができるか。　など

（数学）
- 商品の売り上げ等に関するグラフや箱ひげ図から、情報を読み取ることができるか。
- 利率やコスト等の条件を比較し、将来的な見通しを立てることができるか。　など

（英語）
- Eメールや手紙などにおいて、求められている情報を適切に書いて伝えることができるか。
- 英語の掲示や取扱い説明書等から、必要とする情報を取り出し、目的を達成することができるか。　など

（注）上記は、あくまで問うている力が生かされる場面の一例であり、その情報設定で出題されるとは限らない。

【出題の工夫】
○「生徒の学習意欲を高める」ために、場面設定や取り扱う題材について様々な工夫を行うことを目指す。

＜工夫の一例（イメージ）＞
- 日常的に触れる機会の多い素材（文書やシチュエーション）を問題に取り入れる。
- 進学後の学修や就職後の社会生活の場面を意識させる問題設定を行う。

（注）CBT方式で行う場合、視覚に訴えかける出題をすることで、興味・関心を引き起こす工夫等も考えられる。

【学習指導要領との関連】
○ 学習指導要領に定められている指導すべき内容との関連を意識して出題する。
（注）学習指導要領の項目（大区分・小区分）との関連を想定。

【指導内容や指導・評価方法へのメッセージ】
○出題を通じて、高等学校において様々な指導の工夫に繋げていくことを目指す。

＜一例（イメージ）＞
（国語）　複数の文章を多角的な視点から解釈して自分の考えを形成し、根拠に基づいて論述したり議論したりする授業。
（数学）　実生活と結びついた設定において、数学的手法を用いて意思決定をさせる授業。
（英語）　聞いたり読んだりしたことに基づいて、生徒同士で双方向的なやりとりをして、4技能を統合的に活用させる授業。

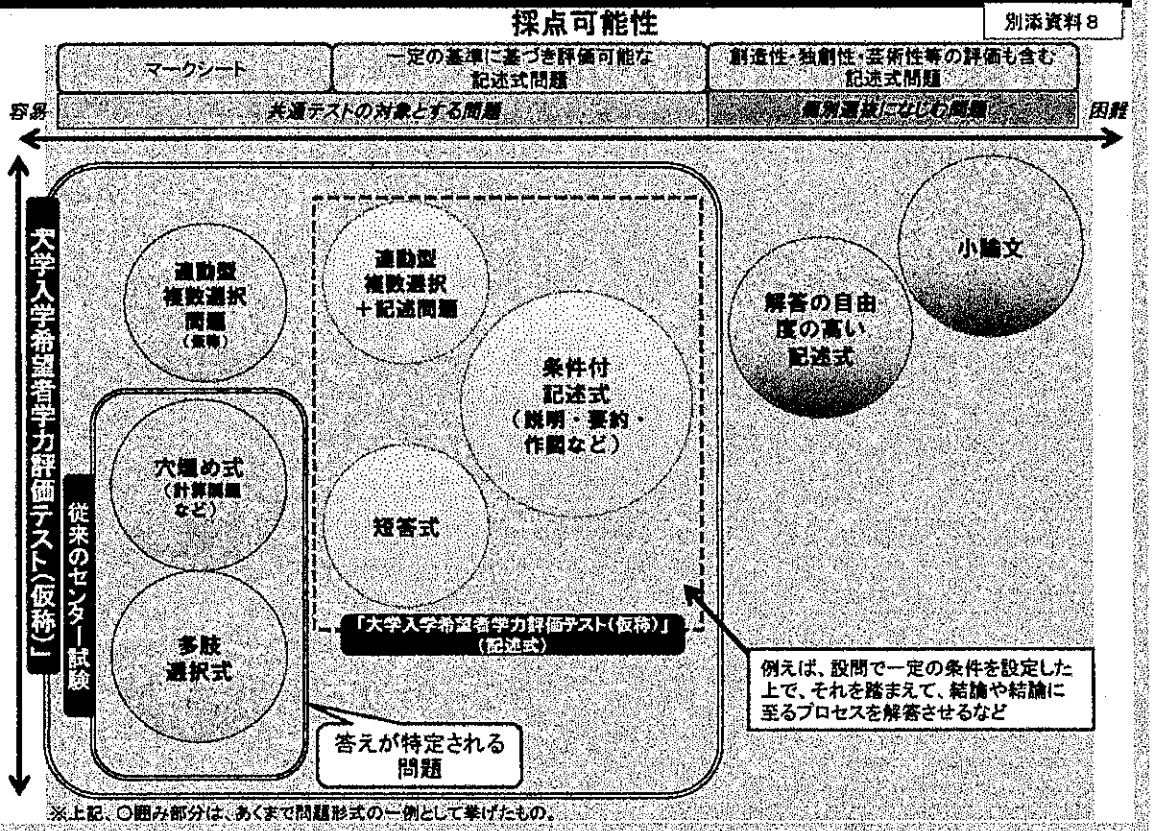
※上記の観点を押さえながら出題する問題を作成・収集・蓄積することで、高等学校基礎学力テスト（仮称）が、高等学校における指導に活用できるものとなることを目指す。

平成28年12月21日中教審答申

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とそれらを評価する方法のイメージ例（たたき台）

別添資料８



平成28年12月21日中教審答申

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

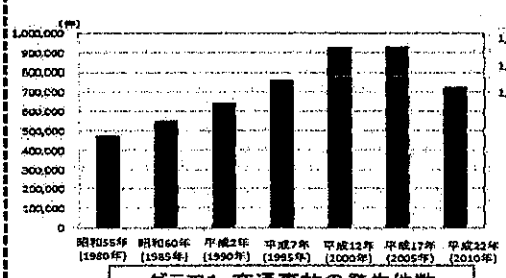
「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」で評価すべき能力と記述式問題イメージ例

問題イメージ＜例1＞

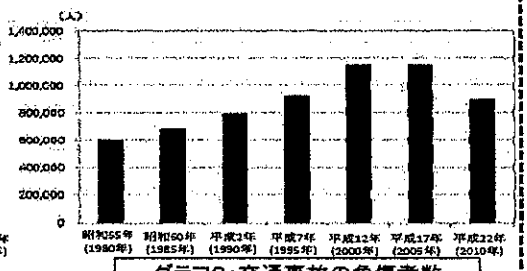
（国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査（論理的な思考）」（平成24年2月実施）より一部改題）

次の文章とグラフを読み，後の問いに答えよ。

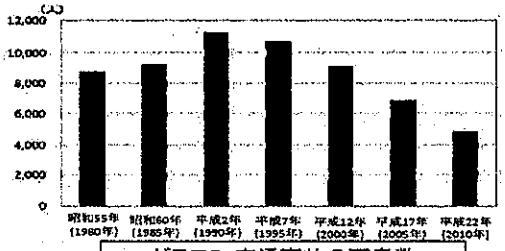
次に示すのは，警察庁事故統計資料に基づいて作成された交通事故の発生件数，負傷者数，死者数のグラフと，この3つのグラフを見て，交通事故の死者数が他よりも早く，平成2年（1990年）以降減少傾向になっていることについて，4人の高校生が行った話し合いの一部である。



グラフ1：交通事故の発生件数

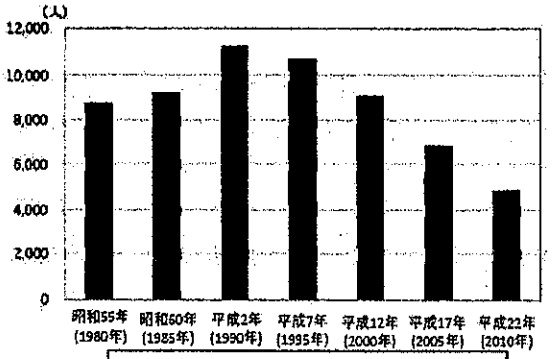


グラフ2：交通事故の負傷者数



グラフ3：交通事故の死者数

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～



グラフ3：交通事故の死者数

Aさん：交通事故の死者数が他よりも早く，平成2年（1990年）以降減少傾向になっているのは，交通安全に関する国民の意識の変化が関係しているのではないかと思います。

その裏付けとなる 資料として，「交通違反で検挙された人数の推移が分かる資料」があると思います。その資料を見れば，飲酒運転やスピード違反など，死亡事故につながるような重大な違反の割合が少なくなっていることが分かるはずです。

Bさん：私は，この30年間で販売されてきた自動車の台数と安全性に関係があると思います。

(a)つまり，自動車の台数は年々増加し続けているので事故件数と負傷者数はなかなか減らなかったけれども，［　　ア　　］［　　ア　　］ということです。

例えば，最近30年間における，「車の総販売台数の推移が分かる資料」と，「車の安全に関する装置の装備率の推移が分かる資料」があれば，このことを裏付けることができると思います。

3　2020年　大学入試が変わる～高大接続改革の必要性～

問題イメージ＜例1＞

Cさん：私は，交通事故の死者数が平成2年（1990年）以降減少傾向になっているのには、医療の進歩がかかわっていると思います。交通事故にあって救急車で運ばれ一命を取り留めた人が，搬送先の病院で，「以前であれば助からなかった」と医師に言われたという話を聞いたことがありました。どういうことかというと，昔は事故にあって助からなかった命が助かるようになってきたので，事故の数は増えても亡くなる人は減り続けてきたのではないかと思います。

その裏付けとなる資料として，例えば，交通事故における救急車の出動回数の推移と救命率の推移が分かる資料が考えられます。その資料を見れば，［　　イ　　］のではないでしょうか。

Dさん：私は，みなさんの意見を聞いて，次のように話し合いの内容を整理してみました。

Aさん，Bさん，Cさんは，3人とも，3つのグラフを比べて1つのグラフだけが異なる傾向を示している現象に着目し，その要因について仮説を立て，その根拠として考えられる資料を挙げて，その資料から推測される内容を述べられました。

これから，皆さんの仮説を検証するための検討や資料収集をしていきましょう。（以下，省略）

問1　Bさんは，下線部(a)「つまり」以下で，どのような内容を述べることになるか。
空欄 ア に当てはまる適切な内容を40字以内で書きなさい（句読点を含む。）。

問2　空欄 イ でCさんはどのように発言したでしょうか。あなたが考える内容を，80字以上，100字以内で書きなさい（句読点を含む。）。

＜解答例＞

問1　ア　自動車の安全性が向上してきたので，死者数は減ってきた（26字）

問2　イ　救急車の出動回数については交通事故の発生件数や負傷者数とほぼ同様に上昇傾向で推移しているのに対し，救命率については死者数の推移とは逆に上昇傾向で推移していることが分かる（84字）

4　家庭学習に求められるもの

～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

学校にはできないこと

デューイ『民主主義と教育』

- 学びは、学校だけで成立しているわけではない。生活している環境全体からさまざまなことを学んでいる。
- 特に人間の場合、「物理的環境（自然環境）」からだけでなく、複数の人間から構成される「社会的環境」の影響からの学びが知的にも道徳的にも重要である。
- 社会生活に参加するなかで、学校教育とは無関係に、無意識のうちに成立している教育がある。
- 社会生活のなかで最も小さな単位である家庭生活の環境は子供の成長に大きな影響を与えることは言うまでもない。
- 家庭という環境は、学校にできない、人間にとって基本的なことを無意識な形で子供に影響を及ぼしている。

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

社会的環境における教育

直接参加を通して無意識的に学ぶ

①言語の習慣

→言葉の基本的様式や語彙の大部分は、きちんと決まった教授の方法としてではなく、社会的に必要なこととして営まれる日常の生活の交わりの中で形成される。

②行儀・作法（マナー）

→意図的な教授により言葉をしてマナーを教えるよりも、日頃の生活が重要。道徳も平素の言行（一致）が基本。

③趣味（好み・センス）・美的鑑賞眼

→普段から優美な作品にふれていれば、自然と向上する。

④価値判断の基準

→何に価値があり、何に価値がないかについての意識的な評価がある。その環境において、無論のことと思っている事柄が、われわれの意識的な思考を限定し、結論を決定する。

学校でなければ教え難いこと

①文字・文書

②遠い昔の過去のこと

③空間的に離れている地域のこと

④物質的なエネルギーや目に見えない構造が果たす役割

◆単純化

→複雑な文明をいったん解体して、単純なものから複雑なものへ段階的に教授。

◆理想化

→社会において価値のないもの、望ましくないものを取り除く（鈍化）。それにより最良のものを選び出して学べるようにする。

◆均一化

→各個人に、自分の生まれた社会集団の限界から脱出して、いっそう広い環境と活発に接触するような機会を得られるように配慮。

◆総合化

→いろいろな民族の、さまざまな宗教をもち、異なった慣習をもった若者たちを学校で混ぜ合わせることによって、すべてのもののために、新しい、しかもいっそう広い環境を創る。

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

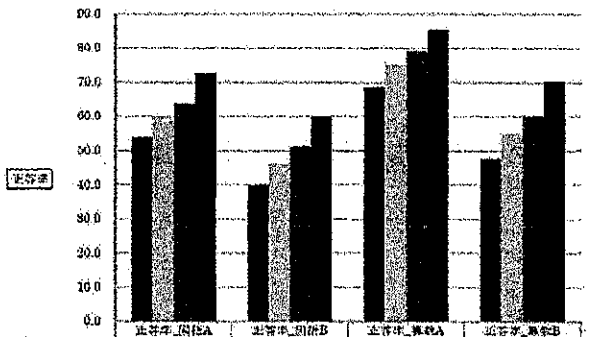
家庭の経済事情による影響（学力）

所得をはじめとした家庭の社会経済的背景と学力には明らかな相関関係がみられる。

●家庭の社会経済的背景（SES）と各正答率

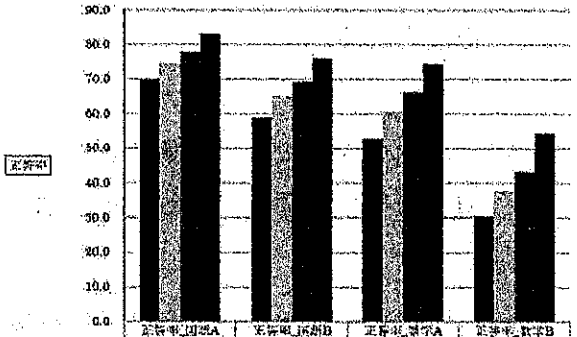
（※家庭の社会経済的背景 SES（Socio-Economic Status）は、家庭の所得、父親学歴、母親学歴の合成尺度）

【小6】



	正答率_国語A	正答率_国語B	正答率_算数A	正答率_算数B
Lowest SES	39.9	39.9	68.6	47.7
Lower middle SES	60.1	40.1	75.2	55.1
Upper middle SES	63.0	51.4	79.2	60.3
Highest SES	72.7	60.0	85.4	70.3

【中3】



	正答率_国語A	正答率_国語B	正答率_数学A	正答率_数学B
Lowest SES	70.0	53.0	53.0	30.5
Lower middle SES	74.5	65.2	60.8	37.7
Upper middle SES	77.8	66.4	66.4	43.5
Highest SES	83.1	76.3	74.6	54.4

注）各グループは社会経済的背景の高い順に並べ、4分割したものである。
最上位1／4をHighest SES（最も高いグループ）、2番目の1／4をUpper middle SES（2番目に高いグループ）、3番目の1／4をLower middle SES（3番目に高いグループ）、4番目の1／4をLowest SES（最も低いグループ）としている。

A問題：主として「知識」を問う問題。身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

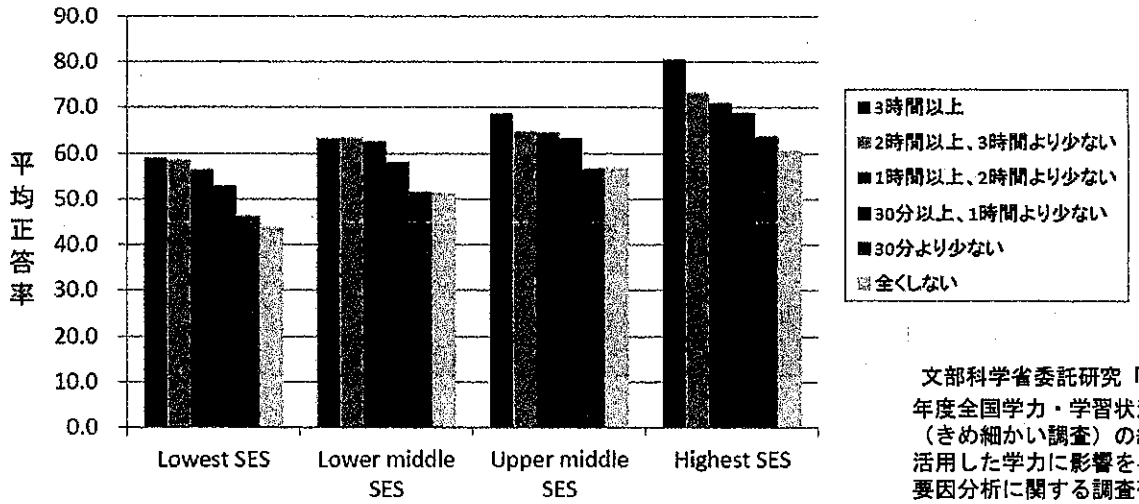
B問題：主として「活用」を問う問題。変容・状況等を踏まえた様々な場面に対応するための、様々な情報等の中から必要な情報を選択し、判断・処理するなど

出典：平成28年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究 聖心女子大学・公立大学法人北九州市立大学（平成28年3月31日）

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

- 家庭の社会経済的背景(SES)と子供の学力との間には強い相関があるが、家庭の社会経済的背景(SES)が低いからといって、必ずしも全ての子供の学力が低いわけではない。

- 子供の学習時間は、全ての家庭の社会経済的背景(SES)で学力との関係が見られ、学習時間は不利な環境を克服する手段の一つと考えられる。



平日の学習時間と教科の平均正答率の関係の例 ＜小学校・国語A＞

文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」（国立大学法人お茶の水女子大学） H26.3

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

- Lowest SESでかつ学力が高い(A層)児童生徒には、以下の特徴が見られる。

＊学力差の大きい算数B・数学Bを使って分析

☐ 朝食等の生活習慣
(朝食を毎日食べている、毎日同じくらいの時刻に寝ている/起きている、テレビ等を見る時間・テレビゲームをする時間が少ない)

☐ 読書や読み聞かせ
(保護者が子供に本や新聞を読むようにすすめている、子供が小さい頃に絵本の読み聞かせをした、子供と一緒に図書館に行く)

☐ 勉強や成績に関する会話・学歴期待・学校外教育投資
(保護者が子供と勉強や成績のことについて話をする、保護者の高い学歴への期待、子供への教育投資額が多い)

☐ 保護者自身の行動 (授業参観や運動会などの学校行事への参加)

☐ 児童生徒の学習習慣と学校規則への態度
(家で自分で計画を立てて勉強している、学校の宿題をしている、学校の規則を守っているなど)

☐ 学校での学習指導
(自分の考え方を発表する機会が与えられている、家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図る ※小学校)

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

子供への接し方　＊家庭の社会経済的背景(SES)の影響を取り除いても学力との関係が見られる。

- □ 生活習慣に関する働きかけ
  (毎日決まった時間に寝る/起きるようにしている、毎日朝食を食べさせている、テレビゲームで遊ぶ時間を限定している、携帯電話等の使い方に関するルールや約束を作っている(または、テレビゲームや携帯電話等を持たせていない))
- □ 読書に関する働きかけ
  (本や新聞を読むようにすすめている、読んだ本の感想を話し合ったりしている、小さい頃に絵本の読み聞かせをした)
- □ 学習に関する働きかけ
  (子供の勉強を普段みている、計画的に勉強するように促している、子供が英語や外国の文化に触れるよう意識している)
- □ 文化・芸術・自然体験活動に関する働きかけ
  (子供と一緒に「博物館や科学館」「図書館」「美術館や劇場」に行く)
- □ 子供とのコミュニケーション
  (子供と「学校での出来事」「勉強や成績」「将来や進路」「友達のこと」「社会の出来事やニュース」について話をする)

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

子供の教育に対する考え方

- □ 高い学歴への期待
- □ 子供の教育について、「自立できるようにする」「人の気持ちが分かる」「自分の意見をはっきり言える」「将来の夢や目標に向かって努力する」ことの重視

学校との関わり

- □ 学校の教育に関する意識
  (学校の教育目標やその達成に向けた方策を知っている、学校や学級の教育活動に関する情報提供は役に立っている)
- □ 学校の活動への参加等
  (授業参観や運動会などの学校行事への参加、ボランティアでの学校の支援、「地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供たちの教育に関わってくれる人が多い」と感じている)

教育投資

- □ 子供への教育投資額(ただし、家庭収入が高いほど教育投資額は大きい傾向にある)

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

3つの軸	内容	項目の代表例
文字・数・思考	文字	・かな文字を読める　など4項目**
	数	・「1個、1本…」などの数え方ができる　など3項目**
	言葉	・自分の言葉で順序をたてて、相手にわかるように話せる　など4項目**
	分類する力	・身の回りにあるものの長さや大きさ、高さを直接並べて比べられる　など4項目**
学びに向かう力	好奇心	・わからないことについて、「なぜ、どうして」など、まわりに質問ができる　など5項目
	自己主張	・自分が何をしたいかを言える　など5項目
	協調性	・遊びなどで友だちと協力することができる　など5項目
	自己抑制	・人の話が終わるまで静かに聞ける　など6項目
	がんばる力	・物事をあきらめずに、挑戦することができる　など4項目
生活習慣	生活習慣	・夜、決まった時間に寝ることができる　など7項目*

＊　発達に合わせて、小1期では6項目。
＊＊ 発達に合わせて、年長児期、小1期で項目内容と項目数が異なる。

ベネッセ教育総合研究所
http://berd.benesse.jp/jisedai/
2010年3月

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

調査研究会より

幼児期に大切にしたいこと

幼児期に育てるべき大切なことは何でしょうか。小学校での学習との関連でみたとしても、それはよくいわれる文字の読み書きなどよりはるかに広いものが含まれます。生活上の自立はいうまでもありません。文字が読めるとか数を数えるといったことも重要です。また、言葉を順序だてて話すとか長さや高さを比べることも必要です。それに加えて、人の話を聞き、自分の考えや意見を言え、物事に集中し挑戦でき、「なぜ」と疑問に思い、質問することが重要だとわかってきました。とくに、論理的な思考力や学びに向かう力は日頃の生活のいたるところで養え、そこでこそ育って身につくものです。特別な訓練というより、日々、保護者が子どもの行いに丁寧に応じることこそ、子育ての本道であることがわかります。

調査研究会より

「子ども自身が考えられるようにうながす」とは

「子ども自身が考えられるようにうながす」ということは、「親が子どもの言葉を聞いて応答することで、子どもを認める」ことから始まります。親の子どもへのかかわりというと、"言葉かけ"を考えがちですが、最初によい聞き手になることが大切です。そして、「言いたいことはこんなことかな」など子どもの言葉を代弁してあげたり、「それってこんなこと」と言葉を足してあげたり、「もうちょっと聞かせて」と問いかけたりしながら、子どもがより詳しく自分で考える意欲を持てるようにしてあげるとよいと思います。大切なのは子どもと同じ目線で親も興味を持ったり、一緒に共感したりしながら、子どもの言葉をふくらませ、子ども自身が考えられるようにしていくことなのです。

ベネッセ教育総合研究所
http://www.benesse.co.jp/jisedai/
2011年10月

アクティブ・ラーニング型学習
３つのポイント

学びに向かう力
（学習の基盤、学習習慣）

我が家の教育方針

家庭で何ができるようになるのか
（子供に願う姿）

家庭の学習環境づくり
（子供にとっての居心地～安心感、集中力）

家庭で何を学ぶのか

家庭でどのように学ぶのか

学校の課題との関連
（復習や予習、個別の夢や目標）

約束事やルール、自己管理能力
（メディアとの上手なかかわり）

家庭の学習環境づくり

子供にとっての居心地（安心感、集中力）

■空間
- 子供部屋、リビング、キッチン
- テレビ、音楽、ＢＧＭ
- 明るさ、広さ、空調

■物的環境
- 本（参考書、国語辞典、漢字辞典、英語辞書、図鑑、事典、絵本、物語、小説・・・）
- デスク周辺（漢字、地図、自己管理表、スケジュール等）
- ＩＴ環境

■人的環境
- 知的やりとり（言葉遊び、数を数える、ブロック、積み木、お絵かきなど）
- コメント（賞賛、激励、叱咤、助言～比較▲）

家庭学習の基本的な考え

復習を内容とした家庭学習

教科書の内容を授業中に完全に納得したつもりでも，自力で意図的に記憶や訓練を行わないと，意識や技能が定着しにくいものです。

そこで，教師から，記憶や訓練などの定着のために，学習課題を与え，復習を行わせます。また，教師が「ここだけは，もう一度しっかり復習してほしい」と考えた課題を家庭学習として与えることもあります。子どもたちが，学びの必要性を感じながら，家でその内容を学習してきたら，確実に次の日，その学びを生かした学習を展開させることにつながり，確かな学力の定着を図ることができます。

これこそ，授業と結び付く家庭学習といえます。

秋田県由利本荘市立Ａ小学校

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

発展的な学習の内容を含んだ家庭学習

子どもの実態に応じてテーマを決めさせて学習を行わせます。その内容としては，事典等を利用して調べること，インタビューすること，本を読むこと，施設等へ行って，見学や鑑賞を行うことなどです。

予習を内容とした家庭学習

あらかじめ，問題意識をもって授業に臨むことができるように，予習を行わせます。その内容は，疑問をもたせること，学習素材を子どもたちに収集させること，辞書等で下調べしたり，しばらく活用していなかった分野の記憶を思い起こさせたりすることです。

家庭学習のススメ
５・６年生

学習時間の目安　５年生　６０分以上
　　６年生　７０分以上

５・6年生はこんな時期です

○自分では，できると思っているので，かける言葉に配慮が必要です。
○得意な教科や苦手な教科を意識するようになります。
○体も心も急激に成長しますが，バランスが崩れ，不安定になることもあります。
　成長を見守ってほしいと思います。

成功のかぎ

見守って，伸ばす！！

子どもの話をよく聞き，成長を見守ることで，将来の夢や目標をもって努力するようになります。

ポイント

子どもの学習に関心をもちましょう。

計画を立てて，自力で学習を進めるように見守りましょう。

○子どものちょっとしたがんばりをほめる。
○よその子どもと比べないで，昨日の我が子と比べてほめる。

学習環境を整えましょう。

自分に合った生活リズムを作りましょう。

○夕食前，早朝など，学習に取り組む時間帯を決める。

家庭と学校とが協力をしていきましょう。

思春期を迎え，子どもの心と体について，担任と話し合いましょう。

○家庭でも，学校でも子どもの話をよく聞く。
○ＰＴＡなどを活用して，担任から情報を得る。

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

ワンポイントアドバイス　こんなことから・・こんなひとことから・・

高学年

漢字練習
「新聞記事の漢字。全部読めるかな？」「新聞記事の中で，習った漢字をノートに書いてみよう。」

ことわざ調べ
「日本にはいろいろなことわざがあるけど，ノートに少しずつ書いてみたら。おもしろいものがあったら教えてね。」

社会
「新聞の気になった記事をスクラップしてみたらどう？時間があるときそのことを教えてね。」「歴史上の人物で知っている人はだれ？その人はどんなことをした人なの？」

算数
「教科書の問題をもう一度ノートに書いてみよう。」

家庭科
「学校で作った料理，休みの日に一緒に作ってみようね。」

ワンポイントアドバイス　まずはこんなことから・・こんなひとことから・・

中学年

環境の工夫
テレビのそばに，地図や地図帳，国語辞典などをおいておきましょう。調べているときに，他の言葉も目に入るのでいいですよ。

社会
「今，テレビで話していた国はどこにあるんだろうね。」

国語
「○○って言葉，どんな意味なのかなあ。」

漢字練習
「新聞記事に，習った漢字があったら，マーカーで塗ってみようか。」「新しく習った漢字を１０回ずつ書いてみよう。」

日記
「新しく習った漢字を使ってうそ日記や未来日記を書いてみよう。何個使えたかな？」

計算練習
一緒に買い物に行ったとき，「おつりはいくらかな？」「おやつ２個で○○円まで買ってもいいよ。」

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

メディアとの上手なかかわり～子供向け新聞の活用

『天声こども語』書き写し

【天声こども語とは】
毎週日曜日と水曜日に連載中の３７４字でまとめる子ども向けコラム。ニュースを題材に、その意味や背景を興味深い読み物としてまとめている。全ての漢字にふり仮名つき。

天声こども語

ブルネイって国を知っていますか。東南アジアのボルネオ島北部にある小さな王国です。この国は、石油や天然ガスがたくさん出るので、とても豊かです。そのため、国民が払う税金はありません▼日本では、4月1日から消費税が5％から8％に上がります。来年10月にはさらに10％に上がることが予定されています。ブルネイみたいな国になれないのかな、と考えてしまいます▼今から40年近く前にそう考えた人がいました。松下幸之助さんという有名な経営者です。国の予算の1割を毎年貯金していけば、そのうち貯金の利子で国の予算をまかなうことができるというのです。松下さんは無税国家論と名付けて、そういう国を目指そうと呼びかけました▼でも今の日本は、松下さんが考えた国と正反対の国になっています。貯金するどころか借金に苦しんでいます。無駄遣いはなかったか、真剣に反省しないといけません。

2014.3.30

2014年3月30日　朝日小学生新聞掲載

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

メディアとの上手なかかわり～認識から思考へ、思考から表現へ

「情報活用能力調査」について

調査の趣旨

① 児童生徒の情報活用能力の実態の把握，学習指導の改善
② 次期学習指導要領改訂の検討のためのデータを収集

出題内容

・情報を収集・読み取り・整理・解釈する力
・受け手の状況などを踏まえて発信・伝達する力
　コンピュータを使用して調査

	情報活用能力調査 実施の有無	情報活用能力調査 調査方法（調査時間）	質問（紙）調査 実施の有無	質問（紙）調査 調査方法
児童生徒	○	コンピュータ 小学校（16問／60分） 中学校（16問／60分）	○	コンピュータ
教員	－	－	○	質問紙
学校（校長）	－	－	○	質問紙

調査対象：小学校第5学年（116校 3343人）・中学校第2学年（104校 3338人）
調査時期：平成25年10月から平成26年1月

児童生徒の情報活用能力に関する傾向

小学生について，整理された情報を読み取ることはできるが，複数のウェブページから目的に応じて，特定の情報を見つけ出し，関連付けることに課題がある。
また，情報を整理し，解釈することや受け手の状況に応じて情報発信することに課題がある。

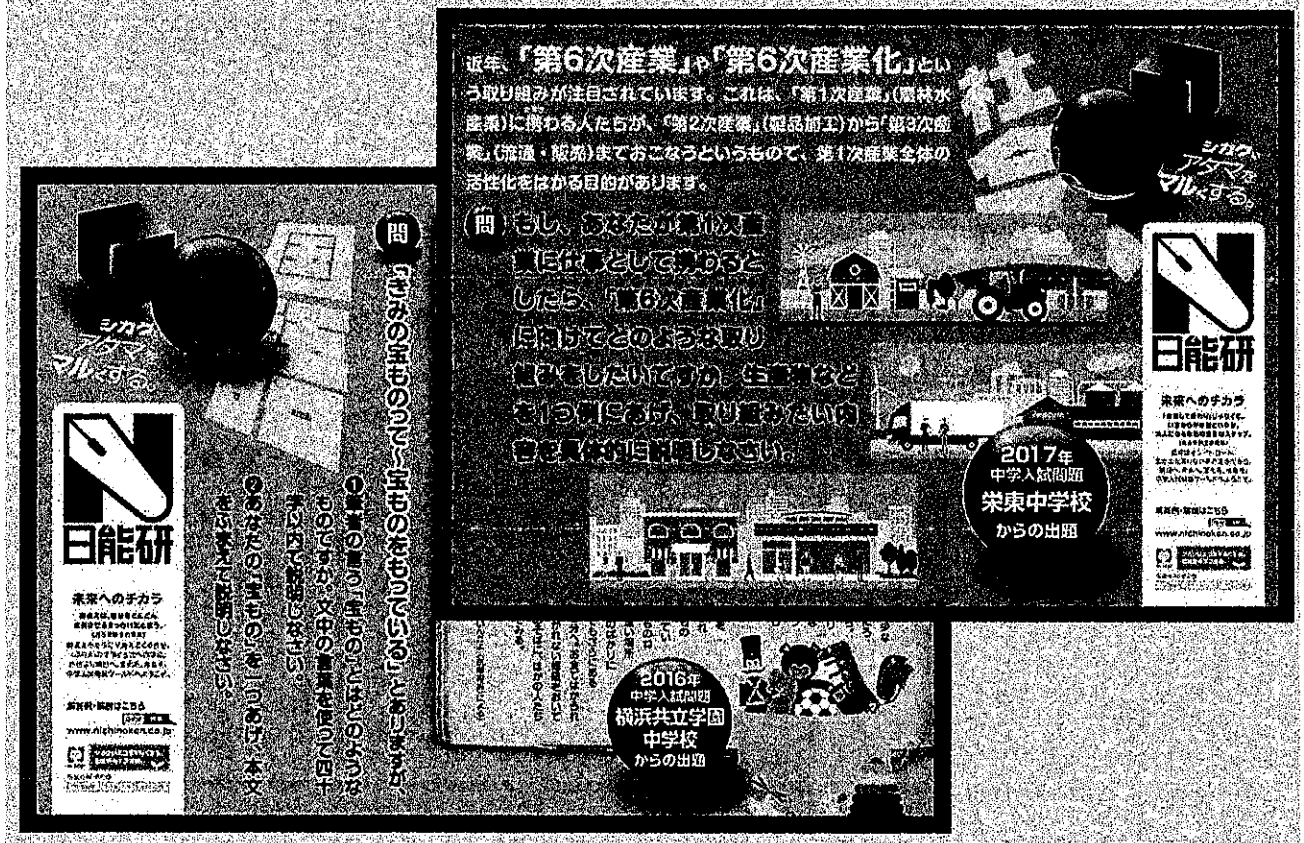
中学生について，整理された情報を読み取ることはできるが，複数のウェブページから目的に応じて，特定の情報を見つけ出し，関連付けることに課題がある。
また，一覧表示された情報を整理・解釈することはできるが，複数ウェブページの情報を整理・解釈することや，受け手の状況に応じて情報発信することに課題がある。

	調査問題内容	通過率(%)
小学校	整理された複数の発言者の情報の正誤を読み取る問題	62.4
	複数のウェブページから情報を見つけ出し，関連付ける問題	9.7
	一覧表示された複数のカードにある情報を整理・解釈する問題	17.9
	2つのウェブページから共通している複数の情報を整理・解釈する問題	16.3
	プレゼンテーションソフトにて 画像を活用してスライドを作成する問題	33.3

	調査問題内容	通過率(%)
中学校	整理された複数の見学地の情報の共通点を読み取る問題	84.3
	複数のウェブページから情報を見つけ出し，関連付ける問題	43.7
	一覧表示された複数の情報を，提示された条件をもとに整理・解釈する問題	76.4
	複数のウェブページから目的に応じて情報を整理・解釈する問題	12.2
	プレゼンテーションソフトにて文字や画像を活用してスライドを作成する問題	39.1

平成28年12月21日中教審答申

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

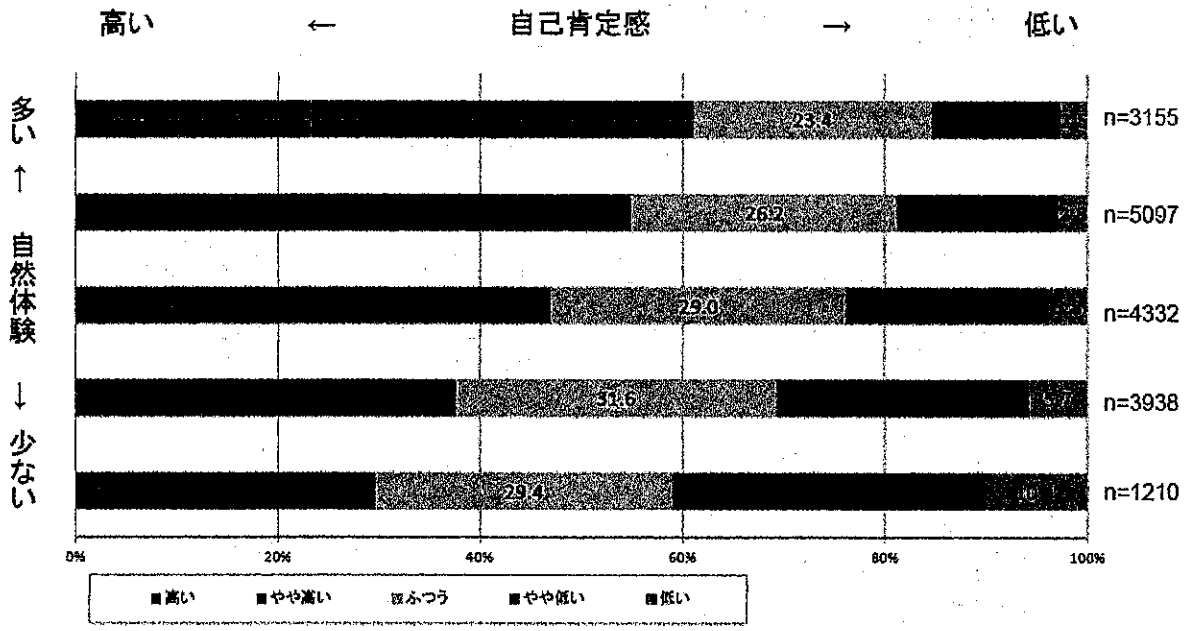


日能研　http://www.nichinoken.co.jp/shikakumaru/

4 家庭学習に求められるもの～アクティブ・ラーニング型学習のすすめ～

自然体験と自己肯定感の関係（平成２６年度）

自然体験が豊富な子供ほど、自己肯定感が高い傾向にある。（小4～6、中2、高2）



※青少年の体験活動等に関する実態調査（平成26年度調査報告書）より

平成28年12月21日中教審答申

カラーバス効果

Coror…色　Bath…浴びる　「色を浴びる」
意識している事柄に関して、自然とそれに関する情報が集まってくる

人間の脳は、特定の物事を意識し続けると、その間に得られた視覚や聴覚などの情報からその物事に関連する情報を積極的に選んで認識するという性質がある。

例えば、「人の気遣いに感謝する（一日をめざす）」ことを意識すると、
「前の人が扉を開けておいてくれる」
「すれ違いざまに道を譲ってくれる」
「お店で出るとき靴がそろえられている」など、
普段あまり意識していない人の気遣いに敏感に反応できるようになる。
そのとき、「ありがとうございます」と相手に伝えるだけで、その一日に彩りが加わることでしょう。加えて、自分自身も人を気遣おうとする意識が芽生えることにつながる。

ぜひ、子供たちにも、ある事柄を意識して過ごすような声掛けをしてみてはいかがでしょう。きっと、頭の中がアクティブになることでしょう。

最後に・・・
子供たちが未来をたくましく生きていくために、
日々の生活や遊び、会話の中で「学びの基盤づくり」を

学びの基盤は、
様々な物事に問いをもち、
その解を求めようとする意欲、
学びを持続しようとする集中力、
困難にも諦めず挑戦していく根気強さ
などから成り立つ。

学びの基盤とは、目に見えにくく、声として届きにくいものである。
そして、それは一朝一夕にはぐくむことはできない困難な業と言える。

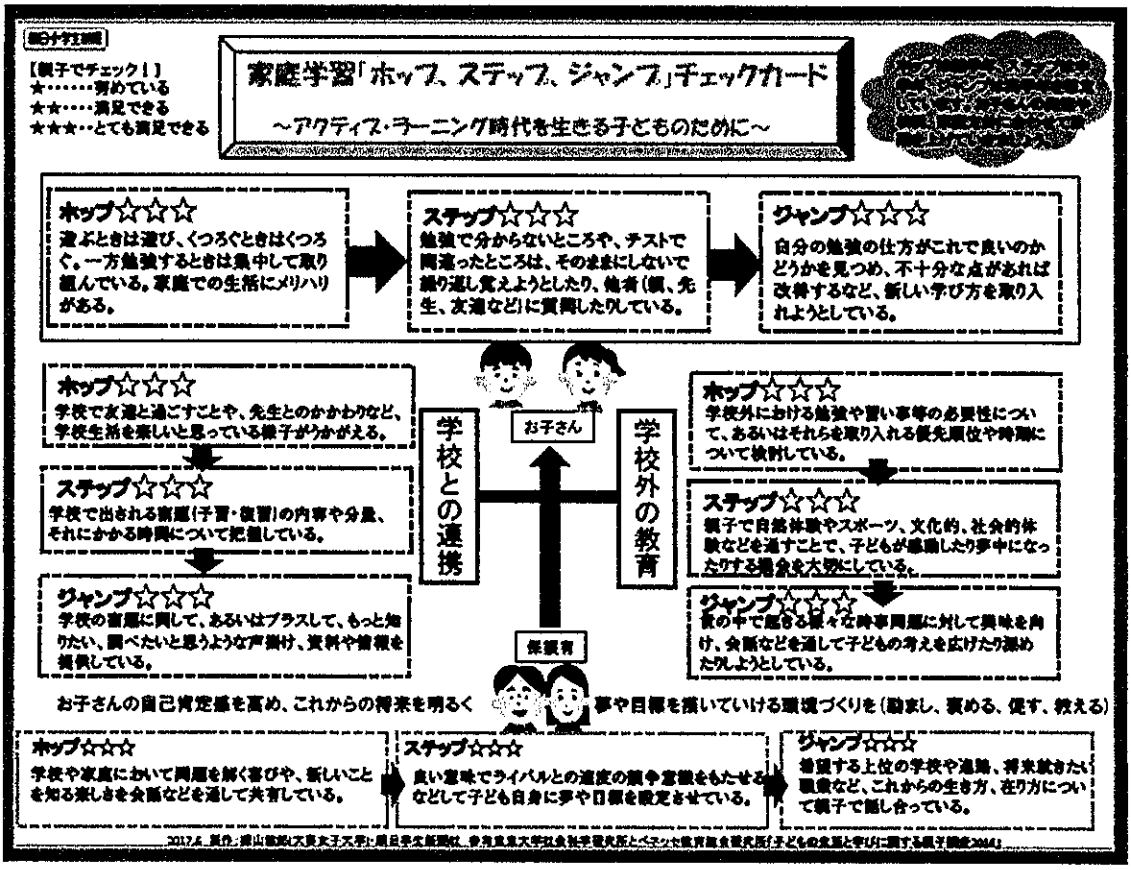
目に見えにくい（見えない）子供の姿を、目を凝らして診ようとする、
聞こえにくい（聞こえない）子供の声に、耳を澄まして聴こうとする、

大人（親や教師）のかかわりや学びに向かおうとする誘いが重要である。

第３回家庭教育学級をふりかえって

家庭教育学級委員長　　戸邊　由希恵
副委員長　田嶌　淑子

平成30年１月30日〔火〕、今年度最後の家庭教育学級を開催いたしました。
今回のテーマは、『２０２０年　教育改革に向けて～アクティブラーニング型 家庭学習の方法～』。これからの学校教育や入試で求められる能力、家庭学習のコツなど最新の情報を、樺山敏郎先生（大妻女子大学 准教授/前文部科学省国立教育政策研究所 学力調査官 兼 教育課程調査官）にお話ししていただきました。
普段は学校の先生方へのご指導をされていますが、今回はたくさんの貴重な資料を用いて保護者向けにわかりやすく教えていただき沢山の気付きがありました。
インフルエンザの流行やお忙しい時期にも関わらず、約30名の保護者の皆さまにご参加いただきありがとうございました。貴重なお話の一部をご紹介したいと思います。



●ホップステップジャンプ法による家庭学習
上の図を用いて、家庭の中で話し合ってみよう！
・ホップ(低学年)・・・家庭での生活にメリハリを持たせることが大事。家庭のルール

に従う（他律）の状態から、徐々に自律(自立)に向かわせる。
・ステップ（中学年）・・・勉強でわからないところをそのままにしない。必ず質問させるよう促す。
・ジャンプ（高学年、中学生）・・・自分の勉強法を見直し改善する。漢字をひたすらノートに書くなどの同じやり方の繰り返しでは学力は伸びない。

●親の学歴や収入が子どもの学力に影響する？？
そこには強い相関性があるものの、家庭の社会経済的背景が低いからといって必ずしも全ての子どもの学力が低いわけではない。学習時間こそが不利な環境を克服できる手段といえる。では学力の高い家庭ではどんな共通点があるのか？
・朝食をとるなどの生活習慣がしっかりしている
（毎日ほぼ同じ時間に寝起きする／テレビやゲームをする時間が少ない等）
・読書や読み聞かせをする
（子どもと一緒に図書館に行く／小さいころに読み聞かせをした等）
・保護者自身の行動
（学校と連携がとれている／学校行事へ積極的に参加する等）
・子供とたくさん会話している。
（親は聞き役になるのが基本。話題については新聞記事を利用するのもおすすめ）
・自然体験をたくさんさせる。
（自然体験が豊かであるほど、自己肯定感が高い傾向にある）

●アクティブラーニング型学習のすすめ
アクティブラーニングとは、生徒の良さ、可能性を引き出しその思いや願いを尊重し、子どもが壁にぶつかったりしたときには先生や保護者が選択肢を与えてあげるような教育を指す。
そこで大事になるのは、子ども自身が【思いや願い】をもつこと。現在の「総合」、「生活」や「学級活動」でおこなわれているように【子どもの思い】から始まる教育や授業、これこそがアクティブラーニング。
これからは多様性を認める時代になる。それにより各テストでもグラフを見てなにかを論理的に説明したりすることが多くなる。答えが一つではない問題が出題される。
自分の思い、考えを相手にわからせることが大事で、プレゼン能力やコミュニケーション能力につながる。
《学びの基盤とは》
様々な物事に問いをもち、その解をもとめようとする意欲、学びを持続しようとする集中力、困難にも諦めず挑戦していく根気強さ。
↑この基盤づくりのために、日々の大人の声掛けや学びに向かおうとする誘いが重要。

●学校・家庭、それぞれの役割について

＜学校にはできないこと＞

次に挙げるようなものは、家庭の中で無意識のうちに養われる。

① 言語の習慣（言葉づかい、くせ）

② 行儀や作法

③ 趣味・美的鑑賞眼

④ 価値判断の基準

＜学校でなければ教えがたいこと＞

① 文字・文書

② 遠い昔の過去のこと（歴史など）

③ 空間的に離れている地域のこと（外国のこと）

④ 質的なエネルギーや目に見えない構造が果たす役割（化学や物理など）

●参加者からのアンケートより（一部抜粋）

・子供の可能性、～したいという思いや願いをまず親が引き出してあげて、選択の幅を広げてあげてほしいという言葉に改めて考えさせられました。

・家庭の役割について、難しく考えるのではなく、子供が楽しく興味を広げていけるように親も一緒に進んでいくことが大切だと実感しました。

・先生がご両親に週に１回お電話するというお話が心に響きました。「子は親の鏡」です。今日の話を聞いて私たち両親がしっかり毎日、子供に関わることが重要であると再確認しました。

・自分勝手に「出来た」ではダメ、自立と共働➡創造

・子どもから、算数の答えはわかるのに、なぜ途中も書かなくてはいけないのかときかれてうまく答えることができませんでした。相手にわかるように論理的に、と教えたいと思います。またこれからの時代は採点をAIがするようになるというのも興味深いと思いました。

・子供本人が積極的に意見を言うだけでなく、周りの親や先生も子供も本質を引き出していく、積極的に関わっていく事が必要なのだと思いました。

・アクティブラーニングという言葉にすると新しく入ってきた考えのように思うけれど、本質は変わるものではなく、子供の声に耳を傾けたくさん話を子供にすると言う事で子供の考えを引き出すことがとても大切だという事。

・言語の習慣、行儀、マナーは家庭にあるということにドキッとした。